

第二編

海軍檢察

第一章 海軍檢察ノ意義、

海軍檢察トハ海軍ニ關スル犯罪ヲ捜査シ證據ヲ收集シ以テ起訴ノ手續ヲ爲スニ至ルマデノ準備處分ノ全體ヲ意味スルモノナリ換言セバ犯罪捜査ニ着手シテヨリ愈罪トナラズ又ハ證據不充分トシテ不起訴トスルカ又ハ犯罪ナリトシテ長官又ハ大臣ニ具申スルカ又ハ犯罪ナルモ管轄違ナリトシテ他管ノ檢察官ニ移送スル等ノ手續ヲ爲スマデノ總テヲ海軍檢察トハ云フナリ而シテ茲ニ海軍ニ關スル犯罪トハ必ズシモ海軍刑法犯又ハ軍港要港規則違犯等ノ如ク犯罪其ノ物ノ性質ガ海軍ニ關スル場合ノミニ限ラズ苟モ海軍軍人軍屬ノ犯罪ナル以上ハタトヒ普通ノ犯罪ト雖モ尙ホ海軍ニ關スル犯罪トシテ檢察處分ヲ爲シ得ルハ勿論若シ犯罪其ノ物ノ性質上海軍ニ關スルモノナルキハ何人ニ對シテモ檢察處分ヲ爲シ得ルモノト解スベク要スルニ「海軍ニ關スル」ナル語ハ宜シク廣義ニ解スヘキナリ、

第二章 海軍檢察ノ機關、

海軍檢察機關ニハ常ニ絶對ニ檢察處分ニ任ズルモノト或ル場合ニ限リ檢察處分ヲ爲シ得ルモノトアリ前者ハ治罪法ニ所謂海

軍檢察官ニシテ後者ハ各廳長及ビ艦船營長ナリトス其ノ他己レ自ラ海軍檢察處分ヲ爲ス能ハザルモ海軍檢察處分ヲ共助又ハ補助スル機關アリ即チ被告人ノ所屬長憲兵ノ將校下士豫審判事檢事司法警察官憲兵卒巡查海軍警査ノ如キ之ナリ、

一、海軍檢察官、

海軍檢察官ハ海軍治罪法第三十七條ニ次ニ記載シタル諸官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ規定セリ、

一、艦船營副長分隊長、

二、生徒隊司令官生徒分隊長及ビ學校監事、

三、軍法會議ノ主理及ビ主理試補、

上ノ外法文ニハ衛兵司令アリタレドモ明治二十一年達第五百號鎮守府衛兵規則廢止ト共ニ當然消滅シタリ、

此等海軍檢察官ハ汎ク一般ニ海軍ニ關スル犯罪ヲ捜査シ證據ヲ收集スルノ權利義務ヲ有スルモノナリ然ルニ或ハ副長ノ如キハ自己ノ艦船營分隊長ノ如キハ自己ノ分隊監事ハ其ノ學校ノ事件ノ外檢察處分ヲ爲シ能ハザルガ如ク論ズル者ナキニ非ルモ開ハ誤レリ唯實際ハ他ノ艦船營分隊學校ニハ各海軍檢察官ノ在ルアリテ却テ自己ヨリモ便宜ノ地位ニアルガ故ニ他所ニマデ干涉スルノ必要ナシト云フマデニシテ理論上トシテハ主理ト同ジク一般ニ對シテ檢察權ヲ有スルモノト解スルヲ至當トス而シテ海軍檢察官ハ現行犯ノ場合ニ於テハ證人通事鑑定人等ニ宣誓ヲ命ジ又ハ罰金ヲ課スル能ハザルノミニシテ其ノ他ノ手續ハ總テ審問主理ト同様ノ權アルモノトス又現行犯人ヲ逮捕シ若クハ檢證處分ヲ爲ス時ハ必要アレバ公力ヲ用フル事ヲ得、

二、各廳長及艦船營長、

各廳長及艦船營長ノ檢察處分權ニ關シテハ海軍治罪法第三十八條ニ規定セリ曰ク各廳長及艦船營長ハ各其ノ管スル所ノ事ニ關シ犯罪アルコトヲ知リタルトキハ檢察處分ヲ爲シ若クハ海軍檢察官ニ其ノ處分ヲ委スヘシト故ニ各廳長及艦船營長ノ檢察權ハ海軍檢察官ノ其レノ如ク一般ノモノニ非ズシテ或ル事件ニ限レリ即チ各其ノ所管ノ事ニ關スル犯罪ニ付テノミ檢察處分ヲ爲シ又ハ海軍檢察官ニ其ノ處分ヲ委シ得ルニ過ギズ、

其ノ管スル所ノ事ニ關スル犯罪トハ如何ナル犯罪ナリヤ之ヲ狹義ニ解スルトキハ各其ノ所管事務ニ關係ヲ有スル犯罪例ヘバ囚徒逃走罪ノ監獄ニ於ケル醫務衛生上ニ關スル犯罪ノ病院ニ於ケル會計經理上ヨリ生ズル犯罪ノ經理部ニ於ケルガ如キ場合ノミヲ意味スレドモ果シテ如何ナル程度迄ヲ所管事務ニ關係アリト見ルヤ否ヤハ實際ニ於テ往々困難ナル問題ヲ生ズ例ヘバ監獄ニ於テ盜難ニ罹リタルトキハ之ヲ以テ監獄ノ所管ノ事ニ關スルモノト云フヘキヤ否ヤト云フニ狹義ニ解スレバ所管ノ事ニ關スルモノト云フヲ得ザルベキモ又一方ヨリ廣義ニ解スレバ自己ノ保管ニ係ル物ヲ盜マレタルトキハ矢張り所管ニ關スル事ノ犯罪ト云フモ不可ナキガ如シ又一步ヲ進メテ部下ノ者ガ外出中所管事務ニ毫モ關係ナキ罪ヲ犯シタルトキモ尙ホ且ツ部下ノ者ト云ヘル關係ヨリ推及シテ所屬長ニ檢察權アリト解セラル現今實際ハ廣義ニ解スルモノ、如シ、

而シテ以上ハ非現行犯ノ場合規ノ定ニシテ現行犯ノ場合ニ在リテハ各廳長艦船ノ長ハ海軍檢察官ト同様總テノ犯罪ニ對シ訊問及ビ檢證處分ヲ爲スコトヲ得、又其ノ處分ヲ海軍檢察官ニ委シ

若クハ憲兵ノ將校下士ニ囑託スルコトヲ得ルナリ、又現行犯人ヲ逮捕シ若クハ其ノ檢證處分ヲ爲スコトキハ公力ヲ用フルコトヲ得、(海治四六、二、四七參照)

三、憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事檢事司法警察官、

是等ノ諸官ハ海軍檢察機關ヲ補助スルモノニシテ其ノ大要ノ職務次ノ如シ、

軍人ニ係ル重罪輕罪ノ告訴告發ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ヲ海軍檢察官若クハ被告人ノ所屬長ニ交附スベシ、(海治四二)

憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ハ現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ又ハ其ノ交附ヲ受クル義務アリテ若シ其ノ逮捕シ又ハ其ノ交附ヲ受ケタルトキハ假リニ訊問及ビ檢證處分ヲ爲シ即チ所謂假豫審處分ヲ爲シテ其ノ調書ヲ添ヘテ事件ヲ海軍檢察官ニ送致スヘキモノトス、(海治四五、四三、四四)

四、憲兵卒巡查、

現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ又ハ其ノ交附ヲ人民ヨリ受クルノ義務アル者ニシテ其ノ逮捕シ若クハ其ノ交附ヲ受ケタルトキハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ之ヲ引致スヘキモノトス、

五、海軍警査、

海軍警査ハ軍法會議ニ屬シ主理ノ命ニ依リ其ノ補助トナリテ働ク機關ニシテ海軍檢察處分ニ關シテハ次ノ事務ニ服スルモノトス、

- 一、主理ノ命ヲ受ケテ犯罪ヲ捜査ス、
- 二、捜査ノ際犯罪ノ事實ヲ知ルヘシト思料シタル書類其ノ他ノ物件アルトキハ所有者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ領置スル

コト、

三、新聞風説其ノ他見聞シタル事實ニヨリ海軍軍人軍屬ノ犯罪又ハ一般人民ノ軍事ニ關スル犯罪アルコトヲ認知シタルトキハ直チニ主理ニ報告スルコト、

等ナリトス（三十二年五月十日達第八十五號海軍警査服務規程）

第三章 海軍檢察ノ手續、

海軍檢察官及ビ檢察權アル者ハ犯罪アルコトヲ知リタルトキ檢察處分ニ着手スヘキモノニシテ今海軍治罪法及ビ同執行規則ニ依リ其ノ手續ヲ略述スヘシ、

六、捜査

犯罪アルコトヲ知リタルトキハ先ヅ捜査ニ着手スヘシ而シテ其ノ捜査ヲ爲シタルトキハ捜査始末書ヲ作リテ事證ト爲スヘキモノトス其ノ捜査始末書ニハ檢察官ガ犯罪ヲ認知又ハ思料スルニ至リタル原因捜査ノ日時場所方法捜査ニ因テ得タル結果即チ犯罪ニ關スル事實并ニ最後ニ始末書作成年月日官職氏名等ヲ詳細記載スヘキモノトス

七、告訴告發ヲ受ケタル場合ノ手續、

口述ヲ以テ爲シタル告訴告發ヲ受ケタルトキハ之ヲ録取シ告訴人告發人ニ讀聞カセ署名捺印セシムヘシ若シ署名捺印スルコト能ハザルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

代人ヲ以テ告訴告發シタルトキハ其ノ告訴狀告發狀ニ代人タルノ事由ヲ附記セシムルモノトス又被害者ニ被害届ヲ差出サシムルモ可ナリ、

告訴人告發人ニハ證人トナルヘキ者ノ氏名住所其ノ他成ルヘク事實ノ證憑參考トナルベキ事實ヲ申立テシムベキモノトス、

告訴告發事件ヲ分明ナラシムル爲メニ其ノ告訴人告發人若クハ其ノ關係人若クハ被告人ヲ訊問スルコトヲ得其ノ訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ聽キ取りタル所ヲ録取シ之ヲ其ノ被訊問者ニ讀聞カセ署名捺印セシム若シ能ハザレバ其ノ旨ヲ附記スベキモノトス、

若シ訊問ヲ受クベキ者外國公使館ニ雇ハレ若クハ外國公使館内ニ在ルトキハ其ノ事實ヲ記載シ其ノ公使館ノ承諾ヲ得ンコトヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申シ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ具申スベシ海軍大臣ヨリ外國公使館ニ於テ承諾アリタルノ下達アリタルトキハ其ノ旨ヲ公使館ノ官吏ニ告ゲテ然ル後訊問ヲ爲スモノトス、

告訴ヲ受理シタルトキハ告訴人ニ告訴受理ノ證書ヲ渡スベシ是レ告訴人ニ於テハ告訴ノ受理セララルヲ待チテ或ハ私訴ヲ提起セントスル者アルベケレバナリ、

告訴人告發人ガ前ニ申立タル事實上ノ陳述ヲ變更センコトヲ請求シタルトキハ其ノ陳述ヲ録取シ又ハ書面ニテ申立シメ之ヲ告訴狀告發狀ニ添ヘ置クベシ、

告訴人告發人ヨリ其ノ願下ヲ爲ストキハ願書ヲ出サシメ聞届ノ旨ヲ朱記シテ本人ニ下附シ訴訟書類ニハ其ノ事由ヲ記入シ置クベシ、

軍人職務上ノ告發軍人職務上ニ因リ犯罪アルコトヲ知リ告發ヲ爲ストキハ必ズ其ノ官職氏名ヲ記シタル書面ヲ以テスベク又之ヲ受理シタルトキハ受理ノ證書ヲ渡スベシ、

告訴人告發人ノ願下アルニ拘ハラズ其ノ事件有罪ナリト認メタルトキハ尙ホ檢察處分ノ手續ヲ續行スベキハ勿論ナリトス但シ告訴ヲ待ツテ受理スベキ事件ハ此ノ限リニ在ラズトス、

八、現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其ノ交附ヲ受ケタル場合ノ手續、

此ノ場合ニ於テハ總テ審問ノ規定ニ從ヒ審問主理ト同ジク檢證訊問其ノ他一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得而シテ現場ヲ臨檢シタルトキ臨檢調書被告人證人等ヲ訊問シタルトキハ其ノ訊問調書書類物件ヲ押收シタルトハ押收調書ヲ作成スルモノトス但シ證人通事鑑定人事實參考人及ビ參考ノ爲メ鑑定ヲ命ジタル者ニ對シテハ宣誓ヲ用ユルコトナカルベク又罰金ヲ科スルコトヲ得ザルモノトス是レ檢察官ナルモノハ被告事件ガ起訴スルニ足ルベキ證憑アルヤ否ヤヲ決スル職權ヲ有スルニ過ギザルガ故ニ宣誓ヲ命ジ罰金ヲ科スルガ如キ重大ナル行爲ハ現行犯ノ場合ト雖モ例外トシテ之ヲ爲サシメザルナリ、

海軍檢察官現行犯ノ場合ニ於テ被告人證人事實參考人其ノ他訴訟關係人ヲ訊問シタルトキハ調書ヲ作り之ヲ本人ニ讀聞カセ其ノ陳述ニ相違ナキヤ否ヤヲ問ヒ署名捺印セシメ若シ能ハザルトキハ其ノ旨ヲ附記スベキモノトス、

九、自首ヲ受ケタル場合ノ手續、

犯罪人口頭ヲ以テ自首シタルトキハ其ノ陳述ヲ録取シ書面ヲ以テスルモ尙ホ推問ヲ要スルトキハ推問シテ其ノ調書ヲ作ルベキモノトス、

一〇、私訴ヲ受ケタル場合ノ手續、

檢察處分中被害者ヨリ贓物返還損害賠償ノ請求ヲ爲シタルト

キハ其ノ目的、申立、及ビ原因ヲ記載シタル要求書并ニ證據アラハ其ノ證據ヲ差出サシメ之ヲ訴訟書類ニ添ヘ置クベシ若シ後其ノ願下若クハ棄權ノ申立ヲ爲シ若クハ其ノ要求ノ變更ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ要求書ニ記入シ訴訟書類ニ添ヘ置クベシ、

告訴ト同時ニ私訴ノ申立ヲ爲ストキハ告訴狀中ニ前項ノ要件ヲ記載セシムルコトヲ得、

若シ被告事件檢察具申ノ手續ヲ爲サザルトキハ其ノ旨ヲ私訴原告人ニ告知スヘシ檢察具申後私訴ノ要求、願下又ハ變更ノ申立アリタルトキハ其ノ書面ヲ徴シ速カニ其ノ事件ノ審判ヲ爲ス軍法會議又ハ具申ヲ爲シタル長官ニ屬スル軍法會議ニ送致スベシ(其ノ他詳細ハ明治三十三年六月二十八日海總第七九一號私訴取扱内規ヲ參照スヘシ、

一一、檢察處分終了ノ手續)、

甲、有罪ト認メタル場合ト 乙、否ラザル場合トニ區別シ先ヅ甲ノ場合ヨリ説明スヘシ、

甲、有罪ト認メタルトキハ次ノ區別ニ從ヒ處分スベキモノトス、

一、犯人管轄ニ屬スル軍人ニシテ重罪輕罪ト認ムルトキハ長官ニ對シ檢察具申ヲ爲スモノトス其ノ具申ヲ爲スニハ犯人、犯罪事實、犯罪ノ時、場所并ニ罰スベキ法律ノ正條等ヲ記載シタル書面ヲ以テシ且ツ證憑書類ヲ添附スベキモノニシテ其ノ書類ハ概テ次ノ如シ(犯罪事件ノ種類ニ依リ異同アルハ勿論ナリ)

第一、搜查始末書、

第二、被告人調書、

- 第三、被害届書、
 第四、私訴要求書、
 第五、證人調書、
 第六、證據物品目錄證據書類其ノ他參考書類、
 第七、鑑定書、
 第八、檢證調書、
 第九、所在不分明ナル被告人ノ人相書、
 艦船團隊長及ビ學校長ノ部下ニ屬スル海軍檢察官之ヲ具申スルトキハ被告人ノ所屬長ヲ經由スルコトヲ要ス是レ職務上ノ秩序ヲ保ツ上ニ於テ當然ノ事ナリトス、
 若シ被告人ノ所屬長檢察處分ヲ爲シ具申ヲ爲スカ若クハ其ノ部下ノ檢察官ノ檢案具申ヲ進達スルトキハ所屬長ハ被告人ノ前罰科^{宣告書アレバ其ノ全文}素行調書ヲ右具申書類ニ添附スヘキモノトス、
 二、違警罪ト認ムルトキハ之ヲ管轄スヘキ官司ニ交附スルモノトス管轄スヘキ官司トハ常人ナレバ警察署軍人ナレバ憲兵部若シ憲兵ナキ場所ナレバ警察署ナリ尤モ交附スルニハ矢張事實并ニ法律ノ大要ヲ記載シタル書面ヲ以テシ收蒐シタル證憑ハ添付スルモノトス、
 三、其ノ所爲重罪輕罪ト認ムルモ裁判管轄ニ非ザル者軍人ナルトキハ之ヲ管理スヘキ長官部下ノ海軍檢察官ニ送致シ陸軍軍人ナルトキハ其ノ事件ヲ管轄スヘキ軍法會議所在ノ地ノ陸軍檢察官ニ送致シ常人ナルトキハ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致スヘキモノトス但シ軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ檢事ニ送致セズシテ長官ニ具申スヘキモノトス、

其ノ常人ノ場合ニ限リ管轄裁判所ノ檢事ニ送致セズシテ檢察處分ヲ爲シタル地ノ檢事ニ送致スル所以ハ通常裁判所ノ管轄ハ複雑ニシテ軍衙ニ於テ之ヲ一々取調べ送致スルハ煩雜ナルガ故ニ便宜ニ從ヒ檢察地ノ檢事ニ送致スルコト、ナシタルナリ軍人ト共犯ノ常人ナルトキハ例外トシテ長官ニ具申スル所以ハ事實審明ノ爲メ併セテ審問ヲ爲スノ必要アレバナリ、

送致スルニハ自ラ認メタル事實并ニ之ニ適用スヘキ法律ノ大要ヲ記載シタル書面ヲ以テ既ニ收蒐シタル證憑ヲ添附スヘキモノトス、

四、高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノ即チ將官若クハ同相當官ノ重罪輕罪ナルトキハ海軍大臣ニ具申スヘキモノニシテ其ノ手續ハ一ニ記載シタル場合ト同様ナリトス、

茲ニ注意スヘキハ普通ノ場合ニ於テハ管轄裁判所又ハ軍法會議ノ檢事又ハ檢察官ニ送致スヘキニ此ノ場合ハ直チニ大臣ニ具申スル所以ハ普通ノ場合ニ於テハ二箇以上ノ同等ナル軍法會議又ハ裁判所アリテ被告ノ身分又ハ土地ノ區域ニ依リテ各其ノ管轄權限ヲ異ニシ隨テ檢事檢察官モ亦其ノ屬スル裁判所又ハ軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ノ外ハ自ラ檢案具申即チ起訴ノ手續ヲ爲スヲ得ザルモ之ニ反シテ高等軍法會議ハ唯一ニシテ土地ノ區域ニ制限ナク苟モ將官同相當官ノ犯罪ハ何レニ於テ行ハレタリト雖モ總テ管轄シ得ルガ故ニ從テ何レノ檢察機關モ苟モ高等軍法會議ニ屬スル事件ト認メタルトキハ他ノ檢察官ニ送致スルコトナク自ラ大臣ニ具申スヘキモノトス、

乙、被告事件罪トナラズ（起訴スルニ足ルベキ證據ナキ場合モ同シ）又既ニ確定判決ヲ受ケタルカ又ハ時効ニ罹リタル等ノ理由ニテ受理スヘカラザルモノナルトキハ檢察具申又ハ送致ノ手續ヲ爲サズ即チ不起訴トス但シ告訴人アルトキハ其ノ旨ヲ告知シ被告人ヲ收禁（現行犯ノ場合）シタルトキハ直チニ釋放セザルベカラズ是レ告訴人ハ起訴アレバ私訴ヲ提起スルノ準備モアリ又不起訴トナレバ時ニ或ハ被告人ヨリ損害要償ノ訴ヲ受クルノ恐レモアリ其ノ事件ノ起訴不起訴ニ因リ利害關係ヲ有スルコト少カラザルガ故ニ告知ノ必要アリ又被告人ハ犯罪ノ嫌疑アレバコソ收禁シタルモ既ニ罪トナラズ又ハ受理スベカラザルモノトシテ不起訴ニ附シタル以上ハ收禁ノ必要ナキガ故ニ釋放スルナリ、

一二、起訴ニ關スル長官ノ命令、

通常裁判所ノ刑事訴訟法ニヨレバ公訴ノ提起ハ一ニ檢事ノ判斷ニ任セ檢事ニ於テ搜查十分ナリトスルトキハ重罪ト思料スレバ豫審判事ニ豫審ヲ求メ輕罪ト思料スレバ其ノ事件ノ難易ニ從ヒ或ハ豫審ヲ求メ或ハ直チニ公判ニ附スルモノニシテ檢事ノ此ノ手續ハ取モ直サズ起訴ノ手續ニシテ之ニ依テ直チニ公訴起ルナリ之ニ反シテ海軍治罪法ニテハ檢察官又ハ各廳長艦船營長等ノ檢察具申アリタリトテ之ヲ以テ直チニ起訴ノ手續完成セリト云フヲ得ズ檢察具申アリタル上尙ホ長官ノ命令アリテ初メテ起訴ノ手續完成セルモノト看做スベキモノトス換言スレバ長官ノ命令ハ公訴發生ノ停止條件タルモノニシテ檢察具申ハ起訴ノ手續ノ實體ニ外ナラザレドモ其レ自體ニ於テ公訴ヲ發生セシムルノ力ナク長官ノ命令ニ接シテ初メテ公訴發生シ否ラザルトキハ

公訴發生セズ是レ海軍治罪法ノ特異ナル點ノ一ニシテ軍法會議ハ一種ノ司法裁判所タルニ相違ナキモ其ノ管轄スベキ事件ハ總テ直接間接ニ軍隊ノ安寧秩序ニ關スルモノナルガ故ニ軍隊統一ノ必要上軍長官ノ命令ニ依テ終始セシムルモノナリ、長官被告事件ノ具申ヲ受ケタルトキハ次ノ手續ヲナスモノトス（海治五十二條）

其ノ犯罪輕罪以上ノ刑ニ該ルベキモノト認ムルトキ審問若クハ審判ノ命令ヲ下シ禁錮以下ノ刑ニ該ルベキモノニシテ審問ヲ要セズト認ムトキハ直チニ判決ノ命令ヲ下スベキモノトス而シテ命令ヲ下スト同時ニ其ノ事件ヲ主理ニ下附スルモノトス故ニ命令ノ種類ヲ分テバ次ノ三種トナル、

- 一、審問命令、審問命令ハ事件ノ複雑ニシテ罪ノ有無容易ニ分ラズ動モスレバ判決ノ手續ニ至ラズシテ終了スルヤモ難計場合ニ下スベキ命令ニシテ手續ヲ丁重ニスルノ趣意ニ出デ先ヅ審問ノミヲ爲スヘシトノ意義ナリ此ノ命令ヲ受ケタルトキハ主理ハ審問ノ末意見書ヲ附シテ長官ニ具申シ長官有罪ト認ムルトキハ更ニ判決ノ命令ヲ下スヘキモノトス、
- 二、審判命令、是レ通常ノ場合ニ下ス所ノ命令ニシテ審問ノ上判決スベシトノ意ナリ此ノ場合ニハ主理ハ審問終了ノ上意見書ヲ附シテ訴訟書類ヲ判士長ニ交附シ開廷日時ヲ通知スルヲ以テ判決開始セラル、ナリ但シ注意スベキハ審判命令アリタル事件ト雖モ主理ニ於テ審問ノ末罪トナラズ又ハ公訴受理スベカラザルモノト認メタルトキハ決シテ判決ニ附スベキモノニ非ズシテ免訴ヲ具申スベキモノナリ、
- 三、判決命令、判決命令ハ前ニ述ヘタル如ク被告事件禁錮以

下ノ刑ニ該ルベキモノニシテ審問ヲ要セズト認ムルトキ下
 書ヲ附シテ訴訟書類ヲ判士長ニ交附シ判決會議ヲ開クモノ
 トス、

艦隊ニ於テ主理ナキ場合ニ於テハ長官其ノ部下ノ將校若
 クハ相當官ニ主理ヲ命ジ以テ右命令ト共ニ訴訟書類ヲ下附
 スルモノトス、

問審裁判管轄ニ非ザルモノ及ビ命令ヲ下スヘカラザルモノハ
 其ノ書類ノ具申ヲ爲シタル檢察官ニ返還スルモノトス、

凡ソ刑事訴訟ノ終局ノ目的ハ判決ヲ得ルニ在リテ其ノ目的ニ
 達スルニハ三箇ノ繼續シタル時期ヲ經過スルヲ常トス而シテ其
 ノ第一期ハ犯罪ノ形跡及ビ犯人ヲ搜索スルヲ主トスルモノニシ
 テ所謂犯罪搜索即チ檢察處分ノ手續之ナリ第二期ハ其ノ被告人
 ノ爲シタル行爲ハ法律上果シテ如何ナル性質ヲ有スルヤヲ審査
 シ其ノ證據ヲ蒐集シ依テ以テ其ノ行爲ガ判決ニ附スベキモノナ
 ルヤ否ヲ決定シ判決ニ附スベキモノトセバ如何ナル判決ヲ爲ス
 ベキヤ等ヲ取調べ判決ノ準備ヲ爲スノ手續ナリ第三期ハ被告人
 ヲ愈々裁判官ノ面前ニ致シテ裁判官ヲシテ自由ナル心證ニ基キ
 罪ノ有無刑ノ輕重ニ付終局ノ判斷ヲ下サシムルモノニシテ即チ
 判決ノ手續ナリ本編ニ於テ述ヘントスル所ノ審問ハ即チ第二期
 ニ屬スル手續ナリ、

審問ハ通常裁判所ノ豫審ト殆ンド相類似シ而シテ豫審ガ豫審
 判事ニ專屬スル如ク審問ハ主理ニ專屬ス唯審問ハ豫審ヨリモ一
 層鄭重深密ヲ要スルノ差アリ何トナレバ豫審判事ハ被告事件ガ
 公判ニ附スルニ足ルヤ否ヤ附スヘキモノトスレバ何レノ裁判所
 ノ公判ニ附スヘキヤ否ヤヲ決スレバ足レドモ主理ハ今一步ヲ進

審問ハ通常裁判所ノ豫審ト殆ンド相類似シ而シテ豫審ガ豫審
 判事ニ專屬スル如ク審問ハ主理ニ專屬ス唯審問ハ豫審ヨリモ一
 層鄭重深密ヲ要スルノ差アリ何トナレバ豫審判事ハ被告事件ガ
 公判ニ附スルニ足ルヤ否ヤ附スヘキモノトスレバ何レノ裁判所
 ノ公判ニ附スヘキヤ否ヤヲ決スレバ足レドモ主理ハ今一步ヲ進

審問ハ通常裁判所ノ豫審ト殆ンド相類似シ而シテ豫審ガ豫審
 判事ニ專屬スル如ク審問ハ主理ニ專屬ス唯審問ハ豫審ヨリモ一
 層鄭重深密ヲ要スルノ差アリ何トナレバ豫審判事ハ被告事件ガ
 公判ニ附スルニ足ルヤ否ヤ附スヘキモノトスレバ何レノ裁判所
 ノ公判ニ附スヘキヤ否ヤヲ決スレバ足レドモ主理ハ今一步ヲ進

審問ハ通常裁判所ノ豫審ト殆ンド相類似シ而シテ豫審ガ豫審
 判事ニ專屬スル如ク審問ハ主理ニ專屬ス唯審問ハ豫審ヨリモ一
 層鄭重深密ヲ要スルノ差アリ何トナレバ豫審判事ハ被告事件ガ
 公判ニ附スルニ足ルヤ否ヤ附スヘキモノトスレバ何レノ裁判所
 ノ公判ニ附スヘキヤ否ヤヲ決スレバ足レドモ主理ハ今一步ヲ進

審問ハ通常裁判所ノ豫審ト殆ンド相類似シ而シテ豫審ガ豫審
 判事ニ專屬スル如ク審問ハ主理ニ專屬ス唯審問ハ豫審ヨリモ一
 層鄭重深密ヲ要スルノ差アリ何トナレバ豫審判事ハ被告事件ガ
 公判ニ附スルニ足ルヤ否ヤ附スヘキモノトスレバ何レノ裁判所
 ノ公判ニ附スヘキヤ否ヤヲ決スレバ足レドモ主理ハ今一步ヲ進

第三編

審問

第一章 審問ノ概説

凡ソ刑事訴訟ノ終局ノ目的ハ判決ヲ得ルニ在リテ其ノ目的ニ
 達スルニハ三箇ノ繼續シタル時期ヲ經過スルヲ常トス而シテ其
 ノ第一期ハ犯罪ノ形跡及ビ犯人ヲ搜索スルヲ主トスルモノニシ
 テ所謂犯罪搜索即チ檢察處分ノ手續之ナリ第二期ハ其ノ被告人
 ノ爲シタル行爲ハ法律上果シテ如何ナル性質ヲ有スルヤヲ審査
 シ其ノ證據ヲ蒐集シ依テ以テ其ノ行爲ガ判決ニ附スベキモノナ
 ルヤ否ヲ決定シ判決ニ附スベキモノトセバ如何ナル判決ヲ爲ス
 ベキヤ等ヲ取調べ判決ノ準備ヲ爲スノ手續ナリ第三期ハ被告人
 ヲ愈々裁判官ノ面前ニ致シテ裁判官ヲシテ自由ナル心證ニ基キ
 罪ノ有無刑ノ輕重ニ付終局ノ判斷ヲ下サシムルモノニシテ即チ
 判決ノ手續ナリ本編ニ於テ述ヘントスル所ノ審問ハ即チ第二期
 ニ屬スル手續ナリ、

審問ハ通常裁判所ノ豫審ト殆ンド相類似シ而シテ豫審ガ豫審
 判事ニ專屬スル如ク審問ハ主理ニ專屬ス唯審問ハ豫審ヨリモ一
 層鄭重深密ヲ要スルノ差アリ何トナレバ豫審判事ハ被告事件ガ
 公判ニ附スルニ足ルヤ否ヤ附スヘキモノトスレバ何レノ裁判所
 ノ公判ニ附スヘキヤ否ヤヲ決スレバ足レドモ主理ハ今一步ヲ進

メテ如何ニ判決スベキヤノ程度迄取調べ犯罪ノ情狀刑罰ノ加減ノ原因等ニ至ル迄詳悉シ適用スベキ法律ノ正條ハ勿論言渡スベキ刑名刑期等迄ヲモ記載シタル意見書ヲ作りテ判士長ニ交附スルノ義務アリ是レ軍法會議ハ判決ヲ爲スモノ法律専門家ニ非ザルガ故ニ法律專務タル主理ヲシテ丁重ナル準備ヲ爲サシムルモノナリ、

審問ハ長官檢察具申ヲ受ケ其ノ事件ヲ輕罪以上ノ刑ニ該ルモノト認メ審問又ハ審判命令ヲ下シ訴訟書類ヲ添ヘ事件ヲ主理ニ下附シタルトキヨリ開始セラレタルモノトス、

第二章 審問手續、

審問手續ノ目的ハ證據ヲ蒐集シ之ニ依テ眞實ヲ發見スルニ外ナラズ而シテ事實ノ眞正ヲ證明スベキ材料ハ即チ證據ニシテ其ノ證據ニ依リ眞實ヲ證明スル方法ヲ證據法ト云フ、

證據法ニモ從來種々ノ主義アリ曰ク實體的證據法ト形式的證據法トク制限證據法ト自由證據法等主ナルモノナリ次ニ其ノ概要ヲ述ヘン、

一、實體的證據法ト形式的證據法、二者共ニ眞實ヲ發見セントスル點ハ同一ナレドモ形式的證據法ハ形式上ノ眞實ヲ以テ満足スルモ實體的證據法ハ單ニ形式上ノ眞實ヲ以テ満足セズ自ラ眞實ナリト確認スル迄證據ヲ蒐集スルノ點ニ區別アリ民事訴訟ハ多ク形式的證據法ニ依ルガ故ニ當事者ノ自認ニ重キヲ置キ裁判所ハ自ラ進ンデ證據ヲ蒐集スルコトナレドモ刑事訴訟ハ多ク實體的證據法ニ

依ルヲ以テ被告人ノ自白其ノ他當事者ノ提出セル證據ノミニ甘ンゼズ必要ナリトスルトキハ裁判官自ラ職權ヲ以テ證據ヲ蒐集スベキモノトス我海軍治罪法ノ如キモ此ノ實體的證據法主義ヲ採用セルナリ、

二、制限證據法ト自由證據法、制限證據法トハ證據ノ効力並ニ證據ノ方法ヲ法律ヲ以テ制限スルモノニシテ例ヘバ證人幾人ノ證言アレバ眞實ト看做スト云フガ如キ證據ノ効力ヲ制限スルモノナリ又如何ナル證據方法ニアラザレバ眞實ナリト爲サル、ガ如キハ證據方法ヲ制限スルモノナリ換言セバ制限證據法ハ法律ヲ以テ證據ノ許否并ニ之ガ證據力ヲ制限スルモノニシテ法定ノ條件ニ合セズンバ如何ナル證據アリト雖モ之ヲ採用スルコトナシ之ニ反シテ自由證據法ハ唯證據方法ニ多少ノ制限ヲ置キ之ガ證據力ノ判斷ヲ判事ニ放任シ全ク判事ノ自由ノ心證ヲ以テ判斷セシムルニ在リ蓋シ人智未タ幼稚ナル時代ニ在テハ自由證據法主義ハ或ハ判事ノ專斷ニ流ル、ノ恐ナキヲ保セザレドモ制限證據法主義ハ判事ヲシテ一々法律ノ奴隸タラシメ事實ニ適セザル裁判ヲ爲サシムルコトアリ例ヘバ法律ニ於テ被告人ノ不利益ノ自白ハ採用スヘシト爲ストキ若シ被告人故意ニ自己ニ不利益ナル不實ノ自白ヲ爲シタルトキハ判事ハ其ノ不實ナルコトヲ熟知セルニ拘ハラズ尙ホ有罪ノ判決ヲ下サルベカラズ是レ實體上ノ眞實ヲ得ントスル主義ト兩立スヘキモノニ非ラズ今ヤ人智漸ク開ケ判事モ法律ニ明カナルニ至リタレバ最早自由證據法主義ヲ採用スルヲ可トセザルヲ得ズ而シテ我海軍治罪法ハ刑事訴訟法第九十條ヲ適用スルコト、シ刑事

訴訟法ト共ニ自由證據法主義ヲ採用セリ刑事訴訟法第九十條ハ實ニ次ノ如ク規定セリ、

被告人ニ自白、官吏ノ檢證調書、證據物件、證人及ビ鑑定人ノ供述其ノ他諸般ノ徵憑ハ判事ノ判斷ニ任ス、

故ニ我法律ニテハ如何ナル證據ガ爭點事實ニ適スルヤ否ヤ證據方法ノ證據力ノ有無ハ一々主任判官ノ自由判斷ニ任ジタリ然レドモ次ノ二箇ノ制限アルヲ忘ルヘカラズ、

第一、裁判官ハ法廷ニ提出セラレタル證據方法ニアラザレバ判斷ノ材料トナスコトヲ得ザルコト之ナリ即チ法廷ニ於テ直接ニ被告人ニ面接シ直接ニ證據物ヲ檢案シテ判斷ヲ下スヘキモノニシテ法廷外ニ於テ自己自ラ犯罪事實ヲ見聞スルモ證人トナルコトナク直チニ之ヲ以テ判斷ノ材料ト爲シ得ザルハ當然ナリ、

第二、證據ノ形式ヲ具備シタルモノニアラザレバ判斷ノ材料トナスコトヲ得ザルコト之ナリ形式ヲ具備セザル證據ハ不法ノ證據方法ナレバ之ヲ以テ判斷ノ資料トナスヲ得ズ例ヘバ海軍治罪法第六十六條ノ如キハ其ノ重ナルモノニシテ被告人、證人、參考人ヲ訊問シ若クハ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作り云々ト規定スルニ依リ特別ノ理由ナクシテ此等ノ手續ヲ履マザルトキハ其ノ處分ハ無効ナリト云ハザルヲ得ズ從テ其ノ調書ハ形式ヲ具備セザルガ故ニ證據トシテ採用スルヲ得ザルガ如シ、證據方法ヲ分類スルトキハ人ニ關スルモノト物ニ關スルモノトニ分カル人ニ關スルモノトハ被告人ノ自白證人、鑑定人ノ供述等ニシテ物ニ關スルモノトハ犯罪ノ用ニ供シタ

ル物件、犯罪ニ依テ得タル物件、檢證調書其ノ他犯罪事實ヲ證明スルニ足ル諸般ノ書類物件ヲ云フ、

第一節 被告人訊問、

審問手續ノ第一着ハ被告人訊問ナリトス審問ノ第一着ニ於テ被告人訊問ヲ爲ス所以ニ付テハ或ハ被告人ノ自白ヲ得ンガ爲メナリト云ヒ或ハ被告人ヲシテ辯解セシメンガ爲メナリト云ヒ諸説紛々タルモ要スルニ事實ヲ知ルハ被告人ニ若クモノナケレバ眞實發見ノ方法トシテハ先ヅ被告人ヲ訊問スルヲ相當ノ順序ナリト信ズ而シテ被告人訊問ヲ爲スニハ令狀ヲ發スルヲ要ス故ニ先ヅ令狀ニ付キ説明スヘシ、

一、令狀、

主理ノ被告人ニ對シ發スヘキ令狀ニ三種アリ召喚狀、拘引狀、收禁狀之ナリ今其ノ概要ヲ述ブレバ次ノ如シ、

甲、召喚狀、

一、召喚狀ノ性質、召喚狀トハ被告人ニ對シ一定ノ日時ニ一定ノ場所ニ出頭スヘキコトヲ命令シタル書類ナリ而シテ主理長官ノ審問若クハ審判ノ命令ヲ受ケタルトキハ遅クモ五日以内ニ先ヅ被告人ニ對シ召喚狀ヲ發スルヲ例トス、(海治五十三條、海治執二十條)

二、召喚狀ノ送達、召喚狀ヲ發スルトキ被告人艦船團隊若クハ學校所屬ノ者ナルトキハ其ノ所屬ノ艦船團隊校若クハ被告事件ヲ具申シタル檢察官ニ移シテ送達ノ處分ヲ求ムヘシ但シ艦船團隊校所屬ノ者ト雖モ艦船團隊校外ニ在ルトキハ直チニ本人ニ送達スルコトヲ得若シ又被告人遠

隔ノ地ニ在ルトキハ其ノ地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ其ノ送達方ヲ囑託スルコトヲ得、(海治五六條、海治執二一條)

三、召喚狀ノ効力、召喚狀ヲ受ケタルモノハ必ズ其ノ命令ニ從ヒ一定ノ日時ニ一定ノ場所ニ出頭セザルヘカラズ約言スレバ一國ノ裁判權ニ服スルモノハ總テ裁判所(軍法會議ハ一種ノ裁判所ナリ)ノ召喚ニ應ジテ出頭スルノ義務ヲ有ス從ツテ外國ノ主權者外國ノ公使等國際法上治外法權ヲ有スル外國人ハ此ノ義務ヲ負フコトナシ此ノ例外ヲ除ケバ我が邦ニ在ル凡テノ人ハ此ノ召喚ニ應ゼザルヘカラズ、

召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即日之ヲ訊問セザルヘカラズ(海治五十三條)換言スレバ召喚狀ノ効力ハ長クモ其ノ當日限リノモノト知ルヘシ、

乙、拘引狀、

一、拘引狀ノ性質其ノ目的ハ召喚狀ト同ジク被告人ヲ出頭セシムルニ在レドモ其ノ異ナル所ハ召喚狀ニ在リテハ只ダ書面ノミノ呼出ニシテ一定ノ日時ニ一定ノ場所ニ任意出頭ヲ促ガスニ過ギズ之ニ反シ拘引狀ハ強制的ニ公力ヲ用テ被告人ヲ一定ノ場所ニ引致スヘキコトヲ命ズルモノナルガ故ニ從テ書面ニハ出頭ノ日時ヲ記載スルノ必要ナシ而シテ召喚狀ハ先ヅ第一着ニ發スルヲ通例トシ拘引狀ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其ノ日時ニ出頭セザルトキニ發スルヲ原則トス但シ例外トシテ直チニ發スヘキ場合アリ、

今拘引狀ヲ發スヘキ場合ヲ示セバ次ノ如シ、

- (一) 召喚ヲ受ケタル被告人其ノ日時ニ出頭セザルトキ、(海法五十四條)
- (二) 重罪ノ刑ニ該ルヘキモノト認ムル被告人ナルトキ、
- (三) 輕罪以下ノ刑ニ該ルヘキモノト認ムル被告人ニシテ罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐アルトキ又ハ未遂罪ヲ犯シ其ノ目的ヲ遂ゲ若クハ脅迫罪ヲ犯シ其ノ手段ヲ實行スルノ恐アルトキ、(二、三ハ海治五十五條)

二、拘引狀ノ執行、

拘引狀ヲ執行ハ衛兵若クハ軍屬ヲシテ爲サシム近來軍法會議ニ於テハ專ラ海軍警査ヲシテ執行セシムルヲ例トス、(海治六十一條及海軍警査服務規程)

拘引狀ヲ受クヘキ被告人艦船營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ艦船營長若クハ隊伍ノ長ニ依リ其ノ執行ヲ求ムヘク陸軍營内若クハ隊伍ニ在ルトキハ其ノ隊長ニ依リ執行ヲ求ムヘク又被告人遠隔ノ地ニ在ルトキハ其ノ地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ司法警察官ニ其ノ執行ヲ囑託スルコトヲ得、(海治六十一條、五十六條)

拘引狀ヲ執行スルニ當リ被告人其ノ家宅若クハ他人ノ家ニ逃匿シタリト認ムルトキハ其ノ地ノ戸長若クハ隣佑ノ立會ヲ求メテ之ヲ搜索シ搜索調書ヲ作りテ其ノ始末ヲ明カニシ其ノ正確ナルコトヲ證スル爲メ立會人ト共ニ署名捺印スヘシ若シ立會ヲ求ムル暇ナク又ハ之ヲ得ル能ハ

ザルトキハ其ノ立會ナクシテ搜索ヲ爲スコトヲ得但シ調書ニ其ノ旨ヲ記載スルヲ必要トス、(海治六十一條第三項)

三、拘引狀ノ効力、拘引狀ハ四十八時間留置ノ効力ヲ有ス故ニ拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時間内ニ訊問スヘキモノニシテ若シ此ノ時間ヲ經過シ仍テ留置ヲ要スルトキハ必ズ收禁狀ヲ發セザルヲ得ザルモノトス若シ四十八時間ヲ過ギ收禁狀ヲ發セザル以上ハ直チニ釋放スヘキモノトス、

其ノ四十八時間トハ如何ナル時ヨリ起算スヘキヤト云フニ令狀ノ性質及ビ海治五十七條ニ拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時間ニ之ヲ訊問スヘシ云々トアル法文ノ解釋ヨリスルモ其ノ令狀ニ記載シタル場所即チ主理ノ面前ニ引致シタル時ヨリ起算スヘキモノナルコト明カナリ但シ休暇ノ日ハ算入セザルモノトス、(海治執二十二條)

若シ拘引狀ニテ引致シタル被告人ヲ留置シタルトキハ其ノ所屬長ニ通報スヘキモノトス、(同上)

丙、收禁狀、

刑事訴訟ニ於テ被告人ガ何時ニテモ召喚ニ應ジテ出頭スルコトノ必要ナルハ素ヨリ論ナシ然レドモ或ハ逃走セントシ或ハ證據ヲ湮滅セントスルモノ無キニアラズ於是乎公力ヲ以テ被告人ヲ收禁シ置クノ必要アリ是レ收禁狀ノ由テ起ル所以ナリ、

一、收禁狀ノ性質、收禁狀ハ通常裁判所ノ拘留狀ニ該當スル

モノニシテ訴訟ノ完結ニ至ル迄被告人ノ自由ヲ剝奪スル所ノ命令ナリ其ノ目的ハ被告人ノ逃走及ビ罪證ノ湮滅ヲ防ギ訴訟ヲ完全ニ進行セシムルニ在リ其ノ召喚狀ト異ナルハ召喚狀ハ只一時被告人ヲシテ任意出頭セシムル効力アルニ過ギザレドモ收禁狀ハ公力ヲ以テ強制的ニ訴訟完結マデ監獄ニ留置スルノ効力アリ又拘引狀ト異ナルハ拘引狀ハ被告人ヲ主理ノ面前ニ喚出シタル後四十八時間留置スルヲ得ルニ止マルモ收禁狀ハ幾日間ト雖モ留置スルコトヲ得ルナリ又召喚狀ハ送達スルニ止マルモ拘引狀收禁狀ハ執行スルナリ、

二、收禁狀ノ執行、

茲ニ收禁狀ノ執行トハ令狀ニ記載シタル監獄ニ拘禁收容スル迄ノ手續ニシテ衛兵若クハ軍屬ヲシテ執行セシム近來軍法會議ハ海軍警査ヲシテ執行セシムルヲ例トス、(海治六十一條及ビ海軍警査服務規程)

收禁狀ヲ發シタルトキハ前述ノ如ク被告人ヲ監獄ニ送致スルハ勿論ナルモ訊問其ノ他取調ノ都合ニ依リ留置所ニ留置スルコトヲ得但シ此ノ場合ニハ主理ハ監獄長ニ其ノ旨ヲ通知スルヲ要ス、

三、收禁狀ノ發布及ビ取消ノ原因、

甲、收禁狀ヲ發スル原因、

(一) 拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ヲ四十八時間ヲ經過スルモ尙ホ留置ヲ要スルトキ、(海治五十七條)

(二) 其ノ他何時ニテモ主理ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト認メタルトキ、(海治六十條)

(一)ノ場合ハ必ズ收禁狀ヲ發スヘキ場合ナレドモ(二)ノ場合ハ

發スルコトヲ得ルニ過キザルガ故ニ一ニ主理ノ判斷ニ依ル若シ發スルノ要ナシト認メタル場合ニハ發スルニ及バズ、

乙、收禁狀ヲ取消ス原因、

一旦收禁狀ヲ發シタル後之ヲ取消スヘキ場合ハ次ノ如シ、

(一) 被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノニ非ズト認メタルトキ、

(二) 被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノナルモ收禁ヲ要セズト認メタルトキ收禁狀ヲ發シ若クハ取消シタルトキハ主理ヨリ直チニ被告人ノ所屬長ニ通報シ其ノ高等官ニ在テハ尙ホ所管長官ニ具申シ長官ハ海軍大臣ニ具申スヘキモノトス、

四、收禁狀ノ効力、收禁狀ノ効力ハ性質ヲ述フル際一言シタル如ク公力ヲ以テ被告人ヲ軍法會議所在ノ地ノ監獄ニ拘禁收容シテ訴訟完結ニ至ルマデ何時ニテモ主理ノ喚出ニ應ジテ出廷スルヲ得ルノ位地ニ置クモノトス、

丁、令狀ヲ受クヘキ者外國公使館内ニ在ル場合ノ手續、

令狀ヲ受クヘキ者外國公使館ニ雇ハレ若クハ外國公使館内ニ在ルトキハ主理其ノ事實ヲ記シ其ノ公使館ノ承諾ヲ得シコトヲ海軍大臣若クハ長官ニ具申シ長官ハ之レヲ海軍大臣ニ具申スヘシ、

而シテ海軍大臣ヨリ外國公使館ニ於テ承諾アリタル旨ノ下達アリタルトキハ主理ハ令狀ニ承諾ヲ經タル旨ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ令狀執行者ヲシテ之ヲ公使館官吏ニ示シテ執行セシム、

戊、被告人所在不明ナル場合ノ手續、

此ノ場合ニハ海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校及ビ各控訴院ノ檢

事長ニ人相書ヲ送り其ノ逮捕ヲ求ムルコトヲ得、(海治五十九條) 各檢事長ハ部下ノ檢事ニ傳ヘ檢事ハ逮捕狀ヲ發シテ司法警察官ヲ以テ逮捕セシムルヲ例トス、

二、責附、

一旦被告人ヲ收禁狀ヲ以テ拘禁シタル以上ハ訴訟完結スルマデ何日間タリトモ在監セシムルヲ得レドモ翻テ法制上ヨリ考フルトキハ未決ノ囚徒ヲ永ク拘禁スルハ獨リ被告人ノ不利益ナルノミナラズ國家經濟ノ上ヨリスルモ亦不得策ナリ故ニタトヒ未ダ全ク收禁狀ヲ取消ス程度ニ至ラザルモ最早證據湮滅ノ恐レモナク逃走等ノ懸念モ減少シタル場合ニ依テハ或條件ノ下ニ一時收禁狀ノ効力ヲ停止シ被告人ニ自由ヲ得セシムルヲ穩當ナリトス是レ責附制度ノ起ル所以ナリ此ノ制度ハ舊幕時代ノ五人組預ケ又ハ村預ケノ制ノ進化シタルモノニシテ被告人ヲ其ノ親族故舊ニ何時ニテモ呼出ニ應ジテ法廷ニ出頭セシムヘキ様監督保管セシムヘキ方法ナリ而シテ責附ハ主理ノ職權ヲ以テ爲スモノニシテ敢テ被告人ノ請求ニ依ルモノニアラズ又保證金ヲ徴スルモノニモ非ラズ只責附セラレタル者ヲシテ被告人ヲ注意視察シ何時ニテモ呼出ニ應ジ出廷セシムヘキ證書ヲ出サシムルニ止マル是レ普通裁判所ニ行ハル、保釋ノ制度ト異ナル所ナリ保釋ハ一々被告人ノ請求ニ基キ許スモノニシテ其ノ條件ノ一トシテ裁判所ノ命ズル保證金ヲ出サバルヘカラズ從ツテ其ノ制度ハ軍衙ニ適セザルガ故ニ海軍治罪法ハ採用セザリシナリ今責附ノ條件ヲ舉グレバ次ノ如シ、

- 一、責附ヲ爲スハ未決收禁中ノ被告人ナルコト、
- 二、責附ハ主理ノ職權ヲ以テ爲スモノニシテ必ズシモ被告人ノ

請求ヲ要セズ此ノ點保釋ト異ナル、

三、責附ヲ命ジタル親屬又ハ故舊ヨリ被告人ヲ注意視察シ何時ニテモ呼出ニ應ジ出廷セシムヘキノ證書ヲ差出サシムルコト但シ保釋ノ如ク保證金ヲ要セズ、

責附ハ右ノ條件ニ依リ許スモノナルガ故ニ若シ被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セザル時ハ取消スヘキモノトス、又責附ハ被告人ノ身上ノ移動ナルガ故ニ責附シタルトキハ其所屬長ニ通報スヘキモノナリ、

三、被告人訊問ノ手續、

昔ハ被告人ヲ自白セシムル爲メ暴行凌虐ヲ加ヘテ拷問ニ及ビタルコトアルモ今日ハ最早如斯行爲ハ刑法ガ一ノ犯罪トシテ禁錮罰金ノ刑ヲ課シテ明カニ禁ズル所ナリ又海軍治罪法ニハ明文ナキモ被告人ヲシテ罪狀ヲ自白セシムル爲メ恐嚇詐言ヲ用ユベカラザルコトハ刑事訴訟第九十四條ノ明言スル所ニシテ條理上當然ノコトナリトス何トナレバ如此威力又ハ詐術ニ因リテ得タル自白ハ決シテ信用ヲ置クニ足ラザルノミナラズ裁判官ノ行爲其ノ物が野蠻暴戾ニシテ公正ヲ失スレバナリ、

被告人ニ對シテハ先ヅ氏名、年齢、族稱、職業、住所、原籍、出生ノ地、海軍ノ所轄、官職、位勳、前科ノ有無等身分ニ關スル詳細ヲ確カメ後本案被告事件ノ事實ニ付訊問スルヲ例トス是レ出廷シタル者ガ果シテ本案事件ノ被告人トシテ起訴サレタル者ニ相違ナキヤ否ヤヲ確ムルハ本案ニ入ル前ニ決スベキ先決問題ナレバナリ、

本案事實訊問ノ方法ニ付テハ法文別ニ規定スル所ナキモ被告人ナルモノハ往々眞實ナル申立ヲ爲サズ言ヲ左右ニ托シテ自

己ノ罪責ヲ免レンコトヲ謀ルモノ少カラザルガ故ニ彼ノ證人訊問ノ如ク單純ナル一遍ノ陳述ヲ聽クヲ以テ足レリトセズ事實ノ眞想ヲ明カニスル迄徹頭徹尾糾問審訊スルコトヲ必要トス是レ證人ハ單ニ自己ノ見聞知得セル所ヲ正實ニ陳供スレバ足ルモノニシテ其ノ陳述ガ必ズシモ被告事件ノ全體ヲ明カニスルニ足ルヤ否ヤハ毫モ關スル所ニ非ズ然ルニ被告人ハ爭點事實ノ全體ヲ知ルモノナルガ故ニ之ヲ追究審訊スルノ要アルモノト思考ス、

海治第六十六條ニ依レバ被告人訊問ニハ錄事之ニ立會ヒ調書ヲ作り訊問及ビ供述ヲ錄取シ被告人ニ讀示スベク主理ハ其ノ讀示シタル所其ノ陳述ニ違ハザルヤ否ヤヲ問ヒ陳述者ヲシテ署名捺印セシムヘク若シ署名捺印スル能ハサルトキハ錄事ヲシテ其ノ旨ヲ記セシムヘキモノトス、

被告人其ノ供述ニ付變更増減ヲ申立テタルトキハ更ニ訊問ヲ爲シ其ノ訊問及ビ供述ヲ錄取シ之ヲ讀聞カセ署名捺印セシメザルベカラズ、

急遽ノ際若クハ事故アリテ錄事立會ヲ爲スコト能ハザルトキハ其ノ立會ナクシテ本條ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニハ其ノ事由ヲ調書ニ記載シ置クヲ相當トス、

又主理ハ被告人ノ共犯ナルコト人違ナキコト其ノ他事實ヲ發見スベキ一切ノ模様ヲ證スル爲メ必要ナリトスルトキハ被告人ト他ノ被告人證人又ハ其ノ他ノ者ト對質セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ錄事ハ對質人ノ供述及ビ對質ニ因リ生ズル一切ノ事件ヲ錄取シ對質人ニ其ノ對質ニ關スル部分ヲ讀聞カセ署名捺印セシム其ノ供述ノ増減變更ヲ申立タル場合ニ於テハ被告人ノ場

合ニ同ジ、(刑事訴訟法第九十八條、第九十九條)

以上ハ海軍治罪法ノ明文ニハ之ナキモ是レ當然ノ手續トス若シ被告人又ハ對質人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム若シ聾者啞者文字ヲ知ラザルトキハ通事ヲ命スヘシ其ノ國語ニ通ゼザルトキ亦同ジ、

通事ニハ正實ニ通譯スベキコトヲ宣誓セシムヘキモノニシテ其ノ方法ハ主理宣誓書ヲ讀示シ之ニ署名捺印セシム若シ能ハザレバ録事ニ其ノ旨ヲ附記セシムルモノトス而シテ其ノ宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置クモノトス、

又通事正當ノ事由ヲ證明セズシテ呼出ニ應ゼズ若クハ宣誓ヲ肯ゼズ若クハ不正ノ通譯ヲ爲シタル等ノ場合ノ制裁ニ付テハ總テ證人鑑定人ト同様ナルヲ以テ證人鑑定人ノ説明ノ際同時ニ説明セントス、

第二節 證人ノ訊問、

四、證人、

一、證人ノ意義、證人トハ被告人以外ノ者ニシテ被告事件ニ關シ自ラ實驗感知シタル事實ヲ裁判所ニ對シ(海軍治罪法ノ語ヲ以テスレバ軍法會議ニ對シ)テ宣誓ノ上陳述スルモノヲ云フ例ヘバ謀殺被告事件ニ於テ甲ガ現場ニ於テ被告ノ被害者ヲ殺害スルヲ目撃シタリトセバ甲ハ即チ證人ニシテ甲ノ被告ノ殺人行爲ヲ見タリトノ證言ハ被告ガ果シテ被害者ヲ殺害シタリヤ否ヤノ爭點ヲ決スヘキ有力ナル證據ナリ又乙ガ被告ノ兇行前被告ガ被害者ニ對スル怨恨ヲ述べ之ヲ殺害シテ其ノ怨恨ヲ晴サンコトヲ物語ルヲ聞キタリトセバ其ノ事實ノ陳述ハ被告ノ謀殺ノ意

思ヲ見ルニ足ルヘキ有力ナル證據ノ一ニシテ乙ハ即チ證人ナリ換言セバ裁判所カ或ル事實ヲ證明スルニ必要ナル證據トシテ其ノ事實ニ付見聞實驗シタル人ニ對シ事實ノ陳述ヲ要求ス其ノ要求セラレタル人ハ即チ證人ナリトス、

二、證人タルノ義務、證人タルノ義務ハ國民タルノ義務ニアラズシテ裁判權ニ服從スルヨリ生ズル義務ナルガ故ニ苟モ我裁判權ニ服從スル者ハ内外國人ノ區別ナク總テ裁判所ヨリ命ゼラレタルトキハ證人トナルノ義務アリ其ノ義務ナキモノハ日本ノ裁判權ニ服從セザルモノ即チ内外國ノ主權者外國公使及ビ其ノ眷屬等ナリ、

三、證人ノ資格ナキ者、證人タルヘキ義務アル者ト雖モ總テノ場合ニ於テ悉ク證人タルノ資格アルモノニ非ズ換言セバ其ノ陳述ニ信用ヲ置キ難キ狀況ニ在ル者ハ證人トナスヲ得ズ即チ海軍治罪法第六十五條ハ證人トナスコトヲ得ザル者ヲ次ノ如ク列舉セリ、

- 第一、被害者、
- 第二、被害者及ビ被告人ノ親屬、
- 第三、被害者及ビ被告人ノ後見人又ハ其ノ後見ヲ受クル者、
- 第四、被害者及ビ被告人ノ雇人、
- 第五、現ニ陳述ヲ爲スヘキ事件ニシテ曾テ訴ヲ受ケ證憑充分ナラザルニ因リ免訴ノ宣告ヲ受ケタル者、
- 第六、重罪事件ノ爲メ軍法會議ノ判決ニ附セラレタル者若クハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者及ビ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ノ爲メ軍法會議又ハ普通裁判所ノ判決ニ附セシメタル者、

第七、公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ停止セラレタル者、

第八、十六歳未満ノ者、

第九、知覺精神ノ不充分ナル者、

第十、瘖啞者、

第一乃至第四ニ列擧シタル者ハ孰レモ被告事件ノ結果ニ對シテ利害ノ關係ヲ有スルモノ即チ被害者ノ方ニテハ被告人ノ爲メ有罪タルヲ欲シ被告人ノ親類等ハ如何ニモシテ無罪タラシメント欲スルノ感情ヨリ自然公平ナル事實ノ陳述ヲ爲スコト能ザルノ傾向アルハ普通ノ常情ナリ、五ハ現ニ陳述スヘキ事件ニ付テ被告トナリテ裁判所ノ豫審又ハ軍法會議ノ審問ニ於テ證據不十分ナリトノ理由ヲ以テ免訴トナリタルモノニシテ此ノ者ハ若シ正當ナル事實ヲ陳述スルニ於テハ再ビ已レガ被告トナルノ恐アリテ充分公平ナル陳述ヲナシ能ハザル傾向アリ、六ハ重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ルベキ輕罪事件ノ爲メ既ニ判決ニ附セラレタル者ニシテ信用ヲ置キ難キ人物ナルガ故ニ真正ノ陳述ヲナスコトヲ期シ難シ、七ハ先キニ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ現ニ公權剝奪又ハ停止中ノ者ニシテ證人トナルコトモ一ノ公權ナルガ故ニ之ヲ證人トナスヘカラザルハ明カナリ是レ必竟信用ナキニ基ケルナリ、八、九、十ハ共ニ智能ノ發達不充分ナル爲メ真正ナル陳述ヲ期シ難キモノナリ、

以上ノ如ク種々ノ事情原因ヨリ其ノ陳述ヲ信用シ難キ傾キアルノミナラズ公平真正ナル陳述ヲナス能ハザル傾向アル者ヲ強イテ證人トシテ真正公平ノ陳述ヲ宣誓セシメ而シテ若シ宣誓ニ背キテ虛偽ノ陳述ヲ爲ストキハ僞證罪ヲ以テ罰スルトスレバ人

ニ難キヲ責ムルモノニシテ普通ノ人情ニ反ス故ニ法律ハ此等ノ者ヲ證人ト爲スコトヲ禁ゼリ但シ右證人ノ資格ナキ者ト雖モ事實參考ノ爲メニ其ノ陳述ヲ聽クコトハ敢テ妨ゲザルナリ（海治第六十五條但シ書）是レ所謂事實參考人ニシテ證人ト異ナル處ハ宣誓セザルガ故ニタトヒ陳述ニ虛偽アルモ其ノ制裁ヲ受クルコトナキニアリ從テ一般ニ之ヲ論ズレバ其ノ陳述ハ證人ノ證言ニ比シテ其ノ信用薄キナリ然レドモ事實審判官ハ證據判斷ノ自由ヲ有スルガ故ニ場合ニヨリテハ證人ノ證言ヲ採ラズシテ却テ事實參考人ノ陳述ヲ採用スルモ差支ヘナキナリ、

茲ニ一疑問アリ海治第六十五條ニ列記セル證人無資格者以外ノ者ハ悉ク證人トシテ訊問セザルヘカラザルカ又ハ事實參考人トシテ訊問スルコトヲ得ルヤ之レナリ之ニ關シ或ル論者ハ事實參考人ニ關スル規定ハ例外ノ規定ナルガ故ニ證人無資格者トシテ列記セル以外ノ者ハ總テ證人トシテ訊問スヘシト主張スレドモ治罪法第六十五條ハ事實參考人ト爲スヘキ人ヲ決定シタルモノニ非ズ證人トナスコトヲ禁ジタル人ヲ列擧スルニ過ギザルガ故ニタトヒ證人タルベキ資格アルモノト雖モ主理ハ之ヲ證人トセズシテ單ニ事實參考人トシテ訊問スルヲ妨ゲザルナリ何トナレバ法律ノ禁ゼザル限リハ證據ノ採否ハ一ニ當該審判官ノ自由ニシテ犯罪事實ヲ見聞シタル者ト雖モ或ル關係上又ハ心術上其ノ者ガ眞實ヲ吐露セザルヘシト思料シタルトキハ證人トシテハ勿論參考人トシテモ之ヲ聽カザルコトヲ得況ンヤ證人トシテハ聽キ難キモ參考ノ爲メ聽クベク思料シタル場合ニ事實參考人トシテ訊問スル亦自由ナラザルベカテ殊ニ臨檢等ノ場合ニ於テ極メテ些末ナルコトニテモ訊問スル必要アル場合ニモ一々宣誓

ヲ爲サシムルガ如キハ事鄭重ニ失シ参考人トシテ之ヲ訊問スルヲ以テ足レリ要スルニ證人トスルカ参考人トスルカハ供述者ニ對スル信用ノ程度ニ屬シ其ノ程度ハ法律上事實審判官ヲ拘束スル者ナキヲ以テ證人ノ資格アルモノト雖モ尙ホ参考人トシテ訊問スルコトヲ得ト云ハザルヘカラズ、

四、證言ヲ爲スヲ拒ムコトヲ得ル者、

證人タルヘキ資格アルモノニシテ法廷ニ證人トシテ呼出サレタルモノト雖モ或ル場合ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ルナリ其ノ場合ハ次ノ如シ、

一、醫師、藥商、穩婆、辯護士、辯護人、公證人、神官、僧侶ガ其ノ身分職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リ知り得タル事柄ニシテ默秘スヘキ義務アルモノニ關シ訊問ヲ受ケタル場合、

此等ノ身分職業ハ其ノ性質上疾病、出産、訴訟、公證、信教等ニ關シ人ノ一身上ノ秘密ニ屬スル事實ヲ實驗知得スル機會ヲ有スル者ニシテ其ノ身分、職業上知り得タル事柄ハ一般ニ對シテ默秘スヘキ義務アルモノナリ然ルヲ法廷ニ於テ證言ヲ拒ムヲ得ズトスルトキハ默秘ノ義務ヲ破ルコト、ナリ其ノ結果ハ世人ハ此等ノ人ニ安心シテ充分ノ事實ヲ吐露シテ依托スルコト能ハザルニ至リ從テ此等ノ身分職業ヲ維持スル能ハザルニ至ル是レ法律ハ此等ノ場合ニハ公益上ヨリ證言ヲ拒ムヲ得ルノ特權ヲ與ヘタルモノナリ、(海治第七十條二項)

二、官吏、公吏又ハ官吏公吏タリシ者ガ職務上知り得タル事柄ニシテ默秘スヘキ義務アル事情ニ關スルトキ、

此ノ場合ハ刑事訴訟法ニハ第二百五條ニ明文アレドモ海軍

治罪法ニ明文ナキガ故ニ少シク疑アレドモ小生ハ海軍治罪法ノ立法者ハ當然明カナルコトニテ明文ヲ要セズトノ趣意ニテ明文ヲ揚ゲザリシ者ト解釋スルヲ穩當ナリト信ズ何トナレバ是等ノ場合ニ證言ヲ強ユルトスレバ公ノ職務ト抵觸スルニ至ルヘシ例ヘバ外交又ハ軍事ニ關スル事項ノ如キハ秘密ヲ要スルモノ頗ル多シ然ルニ此等ノ事項ヲ法廷ニ供述セシムルトキハ證人ヲシテ秘密ヲ破ラシムルモノニシテ其ノ職務上ノ義務ニ違背セシムルモノナレバナリ、

五、證人ノ呼出、

主理ハ審問上必要ナリトスル證人ヲ法廷ニ呼出スコトヲ得但シ例外トシテ法廷ニ呼出スコトヲ得ズ其ノ所在ニ就キテ陳述ヲ聽クヲ要スルモノアリ即チ次ノ如シ、

一、皇族、

(海治第六十四條二項)

二、勅任官、

此ノ二者ハ身分ヲ重シテ出廷ノ義務ヲ除外シタルモノナリ然レドモ刑事訴訟法ニテハ出廷ノ義務ヲ絶對ニ除外セルハ皇族ニ限レリ其ノ他大臣ト帝國議會ノ議員(議會開會中ニ)對シテハ其ノ所在地ノ裁判所ニテ訊問スルコトニナリ居ルノミ刑事訴訟法ノ規定ノ方進歩セルヲ認ム、

證人ヲ呼出スニハ呼出狀ヲ發シテ本人ニ送達スルヲ例トス而シテ證人軍人ニシテ艦船團隊若クハ學校所屬ノ者ナルトキハ其ノ所屬ノ艦船團隊校ノ長ニ對シテ其ノ送達ノ處分ヲ求ムベキモノトス但シ此等ノ者ト雖モ艦船團隊校以外ニ在ルトキハ直チニ本人ニ送達シテ出廷セシムルコトヲ得、(海治執二八、二一條)

呼出狀ノ方式ハ海軍治罪法ニハ別ニ規定ナケレドモ慣例ニ依

レバ刑事訴訟法ノ規定ノ如ク呼出狀ニハ證人ノ氏名、住所、職業、出頭ノ日時、場所及ビ呼出ニ應ゼザルトキハ罰金ヲ言渡シ且ツ拘引スルコアルヘキ旨ヲ記載スルモノトス、

刑事訴訟法ニテハ證人ノ呼出ニハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニ少クモ二十四時間ノ猶豫ヲ置クヲ要スレドモ海軍治罪法ニハ斯ル規定ナケレバ猶豫期間ノ必要ハ法定條件ニアラズ又呼出狀送達ノ如キモ絶對的必要條件ニアラザルガ故ニ場合ニヨリテハ口頭ニテ呼出スモ妨ゲナキコト、信ズ、

六、證人訊問手續、

第一、身分調査、

證人ノ出頭シタルトキ第一ニ取調べヘキコトハ人違ナキヤ否ヤノ點ナリコレハ呼出狀ヲ差出サシムルヲ普通トス本法ニハ明文ナケレドモ刑事訴訟法ハ第二百十條ニ明カニ規定シ呼出狀ヲ差出サバルヘカラザルコト、セリ若シ呼出狀ヲ失ヒタルトキハ其ノ人違ナキコトヲ疏明スヘシトセリ但シ本法ニハ明文ナキガ故ニ呼出狀ノ事必要條件ニアラズ要ハ人違ナキコトヲ確カムレバ足レリ次ニ其ノ人違ナキコト明カナルニ至リタルトキハ其ノ氏名、年齢、職業、住所ヲ訊問シ其ノ次ニ證人タルノ資格ヲ有スルヤ否ヤ即チ海軍治罪法第六十五條ニ列記シタル者ニアラザルヤ否ヤヲ取調べヘシ、

現行犯ノ場合ニハ海軍檢察官モ審問ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得ルガ故ニ證人訊問ヲナスコトヲ得ルハ勿論ナルモ此ノ場合ニハ宣誓ヲ用ユルコトナキガ故ニ（海治執十四條）資格ヲ審査スルノ要ナシ何トナレバ宣誓セザレバ偽證罪ノ制裁ナク隨テ純粹ノ證人ニアラザレバナリ、

共犯事件ナルトキハ其ノ各共犯人ト證人トノ間ニ於ケル身分關係ヲモ訊問スヘキモノトス、

第二、宣誓、

證人ノ身分ニシテ其ノ被告事件ニ付證人タル資格アルコトヲ確カメタル上ハ直チニ宣誓ヲ命ズ宣誓ノ式ハ「何某何被告事件ニ付正實ニ陳述ヲ爲スヘキコトヲ宣誓ス」トノ旨ヲ記載シ且ツ年月日ヲ記入シタル宣誓書ヲ讀示シ之ニ證人ヲシテ署名捺印セシム若シ署名捺印シ能ハザルトキハ録事ヲシテ其ノ旨ヲ附記セシムルモノトス而シテ其ノ宣誓書ハ訴訟書類ニ添ヘ置クモノナリ、（海治六十八條）

宣誓ナルモノハ元來證言ニ價值ヲ附スルガ爲メノ趣旨ニ出タル訴訟上ノ形式ナルガ故ニ法律ハ宣誓ノ上虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ニハ偽證罪アリトス故ニ宣誓ハ偽證罪成立ノ要件ナリ去レバ宣誓ヲ爲サザルモノ即チ事實參考人又ハ現行犯ノ場合ニ於ケル海軍檢察官ノ訊問スル證人鑑定人ニハ偽證罪ノ制裁ナシトス、

第三、證言ノ方法、

證言ハ原則トシテ口頭ノ供述ヲ以テナスモノトス若シ書面ニテ爲スヲ得ルトスルトキハ事實ヲ構造スルノ恐アリ反之口頭ナルトキハ問ニ對シテ有ノ儘ニ發表ズルモノナルガ故ニ普通虛構スルコト少シ是レ原則トシテ口頭ノ陳述ヲ要スル所以ナリ然レドモ徹頭徹尾言語ニ依ルヲ得ザル場合アリ例ヘバ聾者啞者ノ如キ之ナリ海軍治罪法ニハ明文ナキモ斯ル場合ハ必要上例外トシテ聾者ニハ書面ヲ以テ問ヒ啞者ニハ書面ヲ以テ答ヘシメザルヘカラズ又物ノ種類數量ノ如キ極メテ記憶シ難キモノナルガ故ニ

書面ニ基キ口述セシムルヲ許サルヘカラズ又聾者啞者文字ヲ知ラザルトキ又ハ國語ニ通ゼザルトキハ通事ニ依ラザルヘカラズ通事ニハ正實ニ通譯スヘキ旨ノ宣誓ヲ爲サシメザルヘカラズ其ノ宣誓ノ式ハ證人ノ場合ト同様ナリ類推スヘシ、(海治六條、刑訴第百條參照)

證人ハ他ノ證人又ハ被告人ト各別ニ訊問スヘキヤ否ヤ、

此ノ點ニ付本法別ニ明文ナキモ刑事訴訟法ノ如ク他ノ證人又ハ被告人ト各別ニ訊問スルヲ原則トス是レ此等ノ者ヲ同時ニ併セテ訊問スルトキハ被告人ニ對シテハ愛憎畏懼ノ情ニ驅ラレ又證人ニ對シテハ雷同シ易キノ恐アルヲ以テナリ、

第四、證人訊問ノ囑託、

證人訊問ハ軍法會議ニ呼出シテ主任主理自ラ之ヲ爲スヲ普通ノ原則トス然ルニ證人タルベキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テモ總テ其ノ原則ニ依ラサルヘカラザルモノトスルトキハ夥多ノ經費ト勞力トヲ要シ不都合ノ場合アルガ故ニ主任主理ハ證人所在地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ其ノ訊問方ヲ囑託スルコトヲ得ルナリ而シテ之ヲ囑託スルニハ訊問スヘキ事項ヲ明示シ其ノ訊問調書送附アリ度旨ヲ記載シタル書面ヲ以テスベキヲ通例トス、(海治六四條四項六二條二項)

第五、制裁、

證人(通事、事實參考人モ同ジ)疾病其ノ他正當ノ事故ヲ證明セズシテ呼出ニ應ゼザルトキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ科スベク若シ再度呼出ヲ受ケ尙ホ應ゼザルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科スルモノトス之ヲ不參ノ制裁トス若シ五日內ニ正當ノ事故

アリテ出廷スルコト能ハザリシコトヲ證明シタルトキハ罰金ノ宣告ヲ取消スヘキモノナリ、(六十九條)

又證人呼出ニ應ジテ出廷シタルモ宣誓ヲ肯ゼサルカ若クハ宣誓シテ陳述ヲ肯ゼザルトキハ普通刑法第百八十條ニ依リ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ科スヘキモノトス但シ證人トシテ呼出シタル醫師、藥商、穩婆、代言人、辯護人、公證人、神官、僧侶其ノ身分職業ニ關スル秘密ノ事件ニ因リ委託セラレタル事ニ關シ陳述ヲ肯ゼサル場合ハ例外トシテ制裁ナシ、(注意 茲ニ普通刑法ト稱スルハ舊刑法ヲ指スモノト知ルベシ)

第三節 鑑定、

七、鑑定人、

鑑定人トハ被告人以外ノ者ニシテ被告事件ニ關シ犯罪ノ性質方法結果ニ付自己ノ有スル學術技藝職業上ノ智識ニ由リテ意見ヲ陳述スルモノナリ例ヘバ殺人罪ノ場合ニ於テ醫師ヲ鑑定人トシテ毒殺ナリヤ毆打殺ナリヤ(性質)又毒殺ナリトスレバ如何ナル劇毒劑ヲ使用シタリヤ(方法)又致命ノ原因ハ毒ニ在リヤ將タ他ノ原因ニ由ルヤ(結果)ヲ鑑定シテ其ノ意見ヲ述ベシムルガ如シ今證人ト異ナル點ヲ擧グレバ次ノ如シ、

- 第一、證人ハ被告事件ニ關シ自ラ見聞實驗シタル事實ヲ有ノ儘ニ陳述スルモノナルモ鑑定人ハ之ニ反シ事實ヲ述ブルニ非ズシテ自己ノ學術職業上ノ智識ニ因リ事實ニ關スル意見ヲ述ブルモノナリ是レ二者性質上ノ主要ナル區別ナリ、
- 第二、證人鑑定人共ニ正當ノ事故ナク軍法會議呼出ニ應ゼザルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科セラル若シ再度ノ

呼出ニ應ゼサルトキハ更ニ二倍ノ罰金ヲ科セラルヘキモノナレドモ證人ニ對シテハ場合ニ依リ再度ノ呼出狀罰金ヲ發セズシテ直チニ拘引狀ヲ發シ又ハ再度ノ呼出狀ニ應ゼサルトキニ於テ始メテ拘引狀ヲ發シテ引致セラル、コトアルモ鑑定人ニ對シテハ如何ナル場合ト雖モ拘引狀ヲ發スルコトナシ此ノ差異アル所以ハ鑑定ノ如キハ意思ヲ定ムルニアルガ故ニ始終任意自由ニ之ヲ爲シテコソ始メテ允當ナル結果ヲ得ベキモ若シ否ラズシテ其ノ意ニ反シテ強制シテ爲サシムルトキハ決シテ好結果ヲ得ヘキモノニ非ズ加之鑑定ハ學術技藝若クハ職業上ノ智識經驗アル者何人ト雖モ爲スヲ得ヘキガ故ニ世間其ノ人ニ乏シカラザルヲ以テ敢テ之ヲ強制スルノ必要ナシ反之證人ハ自ラ或ル事實ヲ目撃耳聞シタルコトヲ要スルガ故ニ鑑定人ノ如ク他人ヲ以テ之ニ代ハラシムルコトヲ得ズ又一方ヨリ云ヘバ證人ハ意見ヲ定ムルニ非ズシテ感知セル事實ヲ有ノ儘ニ陳述スルニ過ギザルガ故ニ強テ之ヲ爲サシムルモ敢テ事ニ害ナケレバナリ、

八、鑑定人ト爲ルノ義務并ニ其ノ義務ナキ者、

呼出ニ應ジテ出頭スルノ義務、出頭シテ宣誓ヲ爲スノ義務、宣誓ノ義務ナキ者即チ鑑定人ト爲スヘカラザル者及ビ此等ノ義務ニ違背シタル場合ノ制裁等ハ證人ノ場合ニ同ジ只宣誓書ノ書式稍々異ナル點アルノミ委細ハ海軍治罪法第六十七條乃至第七十條及ビ第七十三條ヲ讀ンデ知ルヘシ、

九、鑑定ヲ命ズヘキ場合、

鑑定ヲ命ズヘキ場合ハ主理ガ犯罪ノ性質方法及ビ結果ヲ分明ナラシムル爲メ特種専門ノ學術技能ヲ有スル者ノ鑑定ヲ必要ト

スル場合ニ限レリ(海治六七)犯罪ノ性質方法及ビ結果ノ何タルハ鑑定人ノ意義ヲ述ベタル際一言シタルヲ以テ之ヲ略ス、

一〇、鑑定人ノ任命ノ手續、

鑑定人ノ任命ノ手續ノコトハ法文別ニ規定ナケレドモ證人ノ訊問手續ニ准スヘキモノニテ先ヅ氏名、年齢、族籍、身分、住所、職業、被告人、被害者等トノ關係其ノ他鑑定人トナリ得ヘキ資格ノ有無ヲ調査シ宣誓ヲ爲サシメタル上鑑定スヘキ事項ヲ示シテ鑑定ヲ命ズヘキモノトス宣誓ノ式ハ「何某何被告事件ニ付正實ニ鑑定スヘキコトヲ誓フ」旨ヲ記載シ尙年月日ヲ記載シタル書面ヲ讀示シ之ニ鑑定人ヲシテ署名捺印セシムルナリ、

若シ海軍治罪法第六十五條ニ記載シタル者ナルトキハ證人ノ場合ト同ジク鑑定人ト爲スコトヲ得ズ但シ此等ノ者モ宣誓セシメズ唯參考ノ爲メニ鑑定ヲ命ズルコトヲ得ルナリ、(海治六七)

一一、鑑定ノ方法、

鑑定人ハ其ノ命ゼラレタル範圍ニ於テ鑑定ヲ爲サルヘカラズ例ヘバ毆打創傷事件ニ於テ創傷ノ結果ニ付鑑定ヲ命ゼラレタルトキハ何日間ノ疾病休業ヲ要スルヤ又ハ廢疾篤疾若クハ死ニ至ルヘキヤ等ニ付意見ヲ述ブレバ足レリ毆打ノ方法原因等ニ付意見ヲ述ブヘカラザルガ如シ而シテ鑑定ヲ爲シタルトキハ其ノ鑑定書ヲ作り鑑定ノ方法及ビ鑑定ノ結果即チ鑑定ニ因リ得タル意見及ビ鑑定ヲ爲シタル時間(例ヘバ何時ニ始メテ何時ニ終ルト記スルノ類)ヲ詳細ニ記載スヘク若シ結果ヲ得ルコト能ハザルトキハ其ノ推測スル所ヲ記シ署名捺印スヘキモノトス、

第四節 臨檢、家宅搜索、物件押收、

一、臨檢トハ事實審明ノ爲メ必要ナルトキ犯所又ハ其ノ他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲スヲ云フ檢證トハ五官ヲ以テ檢證物ヲ實驗スル作用ヲ謂フモノニシテ例ヘバ放火罪ニ於ケル被害家屋ノ模様殺人罪ニ於ケル被害死體ノ狀況等檢證物件ノ外觀ニ就キ行フ所ノ一種ノ證據調ナリ、

檢證ハ必ズシモ臨檢ト一致セズ臨檢ハ必ズ法廷外ニ於テスル證據調ナルモ檢證ハ法廷内ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得例ヘバ傷害事件ニ付被害者ヲ法廷ニ喚出シ其ノ被リタル創傷ノ大小形狀等ヲ知ル爲メ檢證ヲ爲スガ如シ此ノ場合ニハ其ノ檢證ノ結果ヲ審問調書ニ記載シ置クモノトス法廷外ニ於テ檢證ヲ爲ストキハ必ズ檢證調書ヲ作成スヘキモノトス、

檢證調書ニハ犯罪ノ方法、性質、日時、場所及ビ被告人ノ人違ナキコトヲ證明スヘキ模様等ヲ記載スヘキモノナリ、

二、家宅搜索トハ被告人ノ住居又ハ證據物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住居其ノ他ノ場所ニ臨ミ搜索ヲナシ又ハ同上記載者ノ身體并ニ之ニ附屬スル物件(例ヘバ衣類器具等)ニ就キ搜索ヲ爲シ其ノ發見シタル證據物件(何人ノ所有ヲ問ハズ)ノ差押ヲ爲ス處分ヲ云フナリ、

家宅搜索ハ人ノ住居ヲ侵ス處分ナレバ縦令公益ノ爲メトハ云ヘ可成家宅ノ安寧ヲ害セザルノ手段ヲ講ゼザルベカラズ故ニ法律ハ原則トシテ家宅搜索ハ日出前日没後ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ例外トシテ旅店、割烹店其ノ他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ付テハ其ノ公開時間ニ限り何時ニテモ搜索ヲ爲スコトヲ得ト規定セリ、

三、物件押收トハ檢證、家宅搜索若クハ任意ノ提出ニ因リ證據トナルヘキ物件ヲ差押フルヲ云フ物件ヲ押收シタルトキハ押收目錄ヲ作り調書ニ添附シ置クモノトシ又録事ヨリ立會人ニ押收物件ニ對スル受領證ヲ渡シ其ノ物件ヲ還附シタルトキハ其ノ受領證ヲ返還セシムルモノトス、

物件運送若クハ保管ノ事ハ録事ノ擔任ニ屬ス其ノ物件ヲ運送スル能ハザルトキハ録事立會人ニ假預ヲ爲シ擔保ノ證書ヲ徴スルモノトス但シ封印ヲ要スルトキハ主理之ヲ爲ス、

臨檢、家宅搜索、物件押收ノ處分ヲナスニハ急遽ノ際若クハ止ムヲ得ザル事故アル場合ノ外ハ必ズ録事之ニ立會ヒ調書ヲ作ラザルヘカラズ、

又其ノ場所遠隔ノ地ニ在ルトキハ其ノ地ノ主理海軍檢察官若クハ憲兵ノ將校下士又ハ豫審判事司法警察官ニ其ノ處分ヲ囑託スルコトヲ得、

第五節 共犯、附帶犯若クハ餘罪ノ覺舉、

凡ソ海軍法衙ニ於ケル訴訟事件ノ審判モ通常裁判所ノ裁判ト同ジク裁判官自ラ進ンデ事ヲ執ルヘキモノニ非ズ別ニ訴訟ヲ提起スル者アリテ茲ニ始メテ活動スヘキナリ換言セバ海軍檢察官ノ檢察具申アリ長官ノ審判命令(審問命令、判決命令モ含ム以下同ジ)アリテ始メテ軍法會議若クハ主理ハ審判ノ手續ニ着手スルヲ得ルモ否ザル以上ハ例ヘ犯罪アリト思料スルモ自ラ進ンデ審判行爲ヲナスヲ得ズ是レ司法官ノ職務ハ檢察官、司法警察官等ノ如キ行政官ト其ノ職務ノ性質ヲ異ニスル所ナリ古來訴訟法上之ヲ不告不理ノ原則ト稱セリ此ノ原則タル民事ニ於テハ絶

對ニシテ例外ナク原告ナケレバ被告ナク又裁判モナケレドモ刑事ニ於テハ例外アリテ檢察官等ノ起訴ノ手續ヲ俟タズ軍法會議若クハ主理直チニ審判ヲナスコトヲ得ル場合アリ是レ民事ハ一箇人ノ私益ニ關スル訴訟ナルモ刑事ハ國家ノ公益ニ關スル訴訟ナルガ故ニ聊カ此ノ相異アル所以ナリ其ノ例外ノ場合トハ他ナシ審問中若クハ判決中共犯、附帶犯、餘罪ヲ覺舉シタルトキナリ此ノ場合ニハ別ニ起訴ナクトモ直チニ其ノ共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ審判スヘキナリ但シ其ノ共犯者附帶犯者高等軍法會議ニ屬スルトキハ之ヲ長官ニ具申スヘキモノトス、(海治第七十五條、第八十六條二項)

共犯トハ二人以上共同シテ一罪ヲ成立セル状態ヲ云ヒ共犯者トハ其ノ共同犯罪者ヲ指ス詳細ハ刑法ニ讓ル、

附帶犯トハ前ニ管轄權限ヲ述ブル際一言シタル如ク場所、日時、人、事等ノ關係ニ於テ二箇以上ノ犯罪又ハ犯人ノ間ニ互ニ附帶關聯スルモノヲ云ヒ即チ次ノ三場合ナリトス、

第一、同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルトキ、

第二、數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルトキ、

第三、自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其ノ罪ヲ免ル、爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキ、

餘罪トハ二罪以上ヲ犯シタル者アリ其ノ一罪前ニ發シテ既ニ審判ニ附セラレタル後ニ發覺シタル他ノ罪ヲ云フ詳細ハ刑法ニ讓ル、

今審問ノミニ付テ云ハシニ前述ノ如ク共犯附帶犯若クハ餘罪

ハ何レモ既ニ起訴セラレタル被告事件ト相關聯スルガ故ニ別ニ起訴ヲ俟タズ直チニ審問スルハ極メテ簡便ニシテ且ツ公益上必要ナレバナリ然レドモ共犯者若クハ附帶犯者ニシテ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スヘキモノナルトキハ其ノ軍法會議ニ管轄權ナキガ故ニ主理モ審問ノ手續ヲナスヲ得ズ直チニ長官ニ具申スヘキナリ又主理共犯附帶犯等ヲ覺舉審問シタルトキハ長官ニ之ヲ具申スルモノトス、

第六節 審問終結ノ手續、

一、共犯常人ノ處分、

軍人ト共犯タル常人ハ軍人同様ノ手續ニ依リ主理審問ヲ行ヒ其ノ手續終了ノ後ハ證憑物件(書類ヲモ含ム)ヲ添ヘ其ノ共犯事件ヲ管轄スル軍法會議所在ノ地ノ檢事ニ送致スルモノトス而シテ常人ニ對スル管轄ハ其ノ所在地タルト否トニ拘ハラザルモノナリ是レ軍衙ノ便宜ヲ計リタルニ依ルナリ、(海治七十六條)

二、有罪ニシテ管轄ニ屬スル場合ノ手續、

主理審問ノ末有罪ト認メタルトキハ次ノ手續ヲ爲スモノトス、
審判ノ命令ヲ受ケタル事件ニ於テハ意見書ヲ作りテ訴訟書類ト共ニ之ヲ判士長ニ交附シ會議ノ日時ヲ定メテ判士長判士ニ通報ス若シ單ニ審問ノ命令ヲ受ケタル事件ナルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其ノ命令ヲ下シタル長官ニ具申スヘキモノトス、

意見書ニハ罪ト認メタル事實其ノ證憑及ビ法律ノ適用ヲ記載スルモノトス尙ホ判士長ニ交附スル意見書ニハ判決ニ關スル意見ナルガ故ニ刑名刑期等ヲモ詳細ニ記載シ附帶ノ私訴アルトキハ私訴ニ對スル意見ヲモ記載スルヲ例トス、

一四、非管轄若クハ免訴トナスヘキ場合ノ手續、

審問ノ被告事件ニシテ裁判管轄ニ非ズ又ハ公訴時効ヲ經タルカ確定裁判ヲ經タルカ大赦アリタルカ又ハ法律ニ於テ其ノ罪ヲ全免スル等ノ理由ニ因リ免訴ト爲スヘキ場合ニ於テハ訴訟書類ニ意見書ヲ添ヘ其ノ命令ヲ下シタル長官ニ具申シテ認可ヲ受クヘシ其ノ認可アリタルトキハ言渡書ヲ作りテ主理録事署名捺印シ共ニ法廷ニ臨ミ主理其ノ言渡ヲナシ其ノ裁判管轄ニ非ル者ハ其ノ事件ヲ管轄スヘキ軍法會議所在ノ地ノ海軍檢察官若クハ陸軍檢察官ニ送致シ軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ係ルモノハ上告期限經過ノ後其ノ地ノ檢事ニ送致スヘキモノトス、(上告期限ノ事ハ普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ件處分法第四條參照)

免訴ノ言渡ヲ爲シタルトキ被告人收禁セラレタルトキハ直チニ之ヲ釋放セザルヘカラズ、

又非管轄免訴ノ處分ヲナシタルトキハ之ヲ海軍大臣又ハ長官ニ具申シ且ツ被告人ノ所屬長ニ通報シ被告人收禁ヲ受ケ居ル者ナルトキハ監獄長ニモ通報シ責付ヲ受ケタルモノナルトキハ其ノ親族故舊ニモ告知スベク私訴アリタルトキハ其ノ告訴人ニモ告知スヘキモノトス、

一五、被告人死去シタル場合ノ手續、

審問中被告人死去シタルトキハ犯罪ノ主體消滅シ從テ刑事訴訟ノ唯一ノ目的タル刑ヲ適用スヘキ目的物滅失シタルガ故ニ其ノ死去ト同時ニ被告事件ハ自然消滅ニ歸スルモノトス唯取扱上命令ヲ下シタル長官其ノ他ノ關係者ニ其ノ旨ヲ通報シテ事件ノ終了ヲ告グルノミ、

第四編**判決**

—○○○○—

判決トハ通常裁判所ニ於ケル公判ト同ジク罪ノ有無刑ノ輕重又ハ管轄違免許等ニ付確的ニ審査判斷シテ當該軍法會議ヲシテ其ノ訴訟事件ヨリ離脱セシムル手續ナリ軍法會議ノ判決手續ハ秘密ニシテ通常裁判所ノ其レノ如ク公行セザルガ故ニ公判トハ稱セザルモ其ノ意義ハ同様ナリ、

第一章 判決ノ開始、

判決ハ次ノ數箇ノ場合ニ開始セラルルモノトス、

- 一、第五十二條ニ依リ長官ヨリ單ニ判決命令アリタルトキ、
- 二、同條ニ依リ長官ヨリ審判命令アリテ審問ヲ終リタルトキ、
- 三、第二十三條第二項第三項ニ依リ艦隊司令長官司令官等ヨリ審判委託アリテ審問ヲ終リタルトキ、
- 四、第五十二條ニ依リ長官ヨリ單ニ審問ノ命令アリ審問終結具申ヲナシ第七十九條ニ依リ更ニ判決ノ命令アリタルトキ、
- 五、違警罪即決處分ニ對シ正式裁判ノ申立アリタルトキ、

第二章 開廷準備、

判決開始セルトキハ主理ハ開廷準備トシテ先ヅ會議ノ日時ヲ定メ當該判士長判士ニ通報シ意見書ヲ作りテ訴訟書類ト共ニ判士長ニ交附シ又一面ニハ被告人其ノ他ノ關係者(豫メ定リタル者)ヲ呼出シ置クモノトス、

判士長判士ハ大概名簿順ニ依リ輪番招集スルヲ通例トス、

意見書ハ判決書作成ノ條件ニ準シ事實證憑法律ノ適用等成ルベク詳細ニ記載シ特ニ罪ノ有無加重減輕ノ模様私訴ニ對スル意見ヲモ具備スルヲ要ス、(海治第七十八條、第九十一條)

第三章 開廷、

軍法會議ハ判士長判士主理録事列席シテ判決廷ヲ開クモノトス若シ此等ノ者ノ一ヲ缺ケバ開廷スルコトヲ得ズ、

判士長判士ノ資格ハ第十一條ノ第一表第二表第十八條及ビ第十九條ニ依リ定ムベキモノトス、

茲ニ問題トナルハ判士長判士主理録事ハ審判中途ニ於テ他ノ判士長判士主理録事ト更替シテ其ノ審判ヲ繼續スルコトヲ得ベキヤ否ヤノ點ナリ此ノ問題ニ付テハ直接審理主義ヲ採ルト間接審理主義ヲ採ルトニ依リ其ノ決定ヲ異ニス蓋シ我海軍治罪法モ刑事訴訟法ト同ジク主トシテ直接審理主義ヲ採リ判士長判士ハ或ル例外ノ場合ヲ除キテハ自ラ直接ニ取調べタルモノヲ以テ判決ノ材料トナシ彼ノ間接審理主義ノ如ク間接ニ他人ノ取調べタル書面等ニ依ルコトヲ得ザルヲ以テ若シ已ムヲ得ズシテ判士長判士中ノ一人ニテモ更替スルコトアレバ最初ヨリ其ノ取調べ更改スルノ外ナシ去レバ判士長判士ハ始終同一ノ人タルヲ要シ前

者ニ代ツテ其ノ審判ヲ繼續スルコトヲ得ズ然レドモ主理及ビ録事ハ單ニ意見ヲ述べ又ハ書類ヲ作成スルニ過ギザルヲ以テ必ズシモ同一ノ人タルヲ要セザルベシ、

第四章 法廷ノ取締及訴訟ノ指揮、

開廷中法廷ノ取締及ビ訴訟ノ指揮ヲナスハ判士長ノ職權ニ屬ス今其ノ作用ヲ述ブレバ次ノ如シ、

判士長ハ開廷ヨリ判決終結ニ至ルマデ法廷ヲ警戒シ其ノ秩序ヲ維持スルノ職權アルガ故ニ其ノ審判ヲ妨ゲ又ハ秩序ヲ害スルガ如キ者アルトキハ之ニ退廷ヲ命ジ又ハ相當ノ處置ヲナスヲ得ベク又必要ト認ムルトキハ令狀ヲ發スルコトモ得ルナリ又法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アルトキハ自ラ檢證處分ヲ爲シ若クハ判士又ハ主理ヲシテ其ノ處分ヲ爲サシメ調書及ビ證憑文書ヲ添へ其ノ命令ヲ下シタル長官ニ具申スベシ但シ其ノ犯人被告人ナルトキハ本案事件ト共ニ直チニ判決ヲ下スベキモノトス、(海治第八十二條)

判決法廷ニ於ケル訴訟ノ指揮權ハ亦判士長ニ屬スルガ故ニ判士長ハ開廷閉廷又ハ審判中休憩ヲ命ジ證據調ノ順序ヲ定メ訴訟關係人ノ發言ヲ許否シ又ハ申立ニ付キ注意ヲ促ス等ノコトヲ爲スヲ得ルナリ、

判士長ハ被告人訊問證據調等ヲ主トシテ自ラ爲スベキナレドモ時トシテハ判士又ハ主理ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得又主理自ラ之ヲ爲サントスルトキハ判士長ニ請フテ之ガ許可ヲ得ザルベカラズ、(海治第八十二條、第八十五條)

第五章 審判、

審判手續進行ノ順序ハ通常次ノ如シ、

一、被告人ノ人別調、

判士長ハ先ヅ被告人ノ氏名、年齢、族籍、住所、出生地、海軍ニ於ケル所轄、職名、官位勳爵從軍記章、褒章等ノ有無及ビ前科ノ有無ヲ問フベシ是レ主トシテ被告人ニ人違ナキヤ否ヤヲ確ムルヲ目的トスル訊問ニシテ審理ノ第一着ニ爲スヲ要スル所以ナリ、(海治第八十一條、海治執第三十九條)

二、書類ノ讀示、

判士長第一ノ人別調終リタルトキハ被告事件ヲ訊問スル旨ヲ告知シ録事ヲシテ主理ノ爲シタル訊問調書若シ主理ノ訊問調書ナキトキハ檢察官ノ調書若クハ意見書等被告事件ノ大要ヲ知ルニ足ルベキ書類ヲ讀示セシムベキモノトス、

通常裁判所ノ公判ニ於テハ人別調ノ次ニ檢事ガ被告事件ノ陳述ヲ爲スヲ以テ公訴ノ必要條件トシ之ナケレバ裁判所ハ自ラ進ンデ取調ヲナスヲ得ザレドモ軍法會議ノ手續ハ之ニ異ナリ檢察官タリシ者ハ其ノ事件ノ審判ニ干與スルコトヲ得ザルガ故ニ判決ニ列スル主理ハ法廷ニ立ツト雖モ裁判所ノ檢事ノ如ク原告官トシテ被告事件ヲ陳述シテ訴追スルモノニアラズ檢事ノ被告事件陳述ニ代フルニ軍法會議自ラ書類ヲ讀示シテ被告事件ヲ告知スルモノニシテ二者手續ノ異ナル著シキ點ノ一ナリ、

三、被告人訊問并ニ證據調、

判士長ハ主理ノ審問調書又ハ事件ノ大要ヲ知ルベキ書類ノ讀示ヲ終リタル後先ヅ被告人ニ對シ被告事件ニ付キ訊問ヲ爲シ其ノ陳述ヲ聽キ然ル後必要ナルトキハ證人參考人ノ訊問證據物件

ノ開示鑑定臨檢等ノ證據調ヲ爲スヲ順序トス其ノ第一着ニ被告人訊問ヲ爲ス所以ハ被告人ニ辯解ノ機會ヲ得セシメシメガ爲メナリ然レドモ證人訊問ニ付急速ヲ要シ其ノ他止ムヲ得ザル事情アルトキハ此ノ順序ニ依ラザルヲ得ルナリ被告人訊問證據調等ニ關スル手續ハ審問ノ場合ト同様ナリ、(海治第八十三條、海治執第四十一條)但シ審問ノ場合ト異ナル點ヲ擧グレバ次ノ如シ、

一、證人、通事鑑定人參考人參考鑑定人等正當ノ事由ナク呼出ニ應ゼザルトキハ軍法會議ハ主理ノ意見ヲ聽キ違警罪事件ニ於テハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料輕罪以上ノ事件ニ於テハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科スベキモノトス、(海治八十四條)

二、共犯附帶犯若クハ餘罪ヲ覺擧シタルキトハ直チニ其ノ判決ヲ爲シ若クハ主理ニ移シテ審問ヲ爲サシムベシ但シ其ノ共犯者附帶犯者高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルトキハ判士長ヨリ其ノ命令ヲ下シタル長官ニ具申スベキモノトス、

判決中覺擧シタル共犯附帶犯ヲ直チニ判決シ若クハ主理ニ移シテ審問ヲ爲サシメタルトキハ判士長ヨリ之ヲ大臣若クハ長官ニ具申スベシ此ノ場合ニ於テ共犯者附帶犯者ノ身分高クシテ現判士長判士ヨリモ高等ノ判士長判士ヲ要スルトキハ判士長之ヲ長官ニ具申シ長官ハ更ニ審問若クハ審判判決ニ附スルノ手續ヲ爲スベシ、

主理判士長ヨリ命ゼラレタル覺擧罪ノ審問ヲ了シタルトキハ意見書ヲ判士長ニ交附スルモノトス、(海治第八十六條、海治執第四十二條)

被告事件ノ取調終リタルトキハ判士長更ニ被告人ニ對シ他ニ

陳述スベキコトナキヤ否ヤヲ問ヒ訊問終リタル旨ヲ告ゲ被告人ヲ退廷セシム、

茲ニ注意スベキハ現今實際ニ行ハルル判決手續ヲ觀ルニ多クハ審問調書若クハ檢察書類ヲ被告人ニ讀示シタル後判士長被告人ニ對シ陳述ノ有無ヲ問ヒ陳述アレバ之ヲ聽キ之ナケレバ直チニ訊問終了ヲ告ゲテ被告人ヲ退廷セシムルヲ例トス即チ軍法會議ニ於テハ書類ノ讀示ヲ以テ通常裁判所ノ檢事ノ被告事件陳述(一)被告人訊問(二)及ビ證據調(三)ヲ兼スルモノト云フベシ是レ蓋シ事件ノ多クハ簡單ニシテ書類ノ讀示ヲ以テ其ノ關係明瞭シ他ニ別ニ取調ブルノ要ナキニモ由ルベケレドモ一ハ現行海軍治罪制度ニ於テ審問官ハ法律専門家タル主理ヲ用ユルモ判決官タル判士長判士ハ法律専門家ニ非ザル將校ノミナルガ故ニ其ノ審問ハ極メテ鄭重慎密ニシテ殆ンド其ノ儘判決ヲ爲シテ差支ナキ程度マデ取調べ且ツ其ノ意見書ノ如キモ判決作成ノ條件ニ從ツテ作り刑罰加減ノ情狀マデモ具備スルヲ以テ自然判士長判士ハ主理ノ審問調書若クハ意見書等ニ信賴スルノ結果別ニ更メテ被告人訊問證據調等ヲ爲スノ要ナシトスル傾向ヲ生ジタルモノナルベシ、

四、判決ノ成立、

被告事件ノ取調ヲ終リ被告人ヲ退廷セシメタル後ハ直チニ判決ノ合議ニ取掛ルモノトス軍法會議ノ判決ハ判士長判士五名ノ合議制ニシテ其ノ過半數ヲ以テ決スルモノナリ若シ其ノ說三說以上ニ分レ過半數ニ至ラザルトキハ過半數ニ至ルマデ被告人ニ不利ナル說ヨリ順次利益ナル說ニ合算ス賠償ノ金額ニ關シ三說以上ニ分レ其ノ說過半數ニ至ラザルトキハ最多額ノ意見ヨリ順

次寡額ノ意見ニ合算ス、

其ノ發說ノ順序ハ下級者ヨリ順次上級者ニ遡ルベシ若シ同級者二人以上アルトキハ其ノ後任者ヨリ順次其ノ意見ヲ述ブベキモノトス、

主理ハ判決合議ノ席ニ列シ判士長判士ノ發問ニ答ヘ又ハ自ら進ンデ意見書ノ趣旨ヲ説明スベシ若レ其ノ判決意見ト合ハザルトキハ其ノ旨ヲ記シタル書面ヲ判決書ニ添フルコトヲ得ベク又其ノ判決法律ニ違ヒ再議スベキ理由アリト認ムルトキハ之ヲ其ノ判決命令ヲ下シタル長官ニ具申スベキモノトス、

五、判決書ノ作成及其ノ作成條件、

判決成立シタルトキハ主理其ノ判決ノ種別ニ從ヒ次ノ條件ニ依リ作成シ判士長判士録事ト共ニ署名捺印スルモノトス是レ前ニモ一言シタル如ク軍衙ノ審判ハ通常裁判所ノ裁判ト異ナリ判士長判士タル者法律専門家ニ非ザルガ故ニ唯一ノ法律専門家タル主理ニ終始干與セシムル所以ナリ、

條件、

判決書ニハ先ヅ初メニ判決ヲ受クベキ主體タル被告人ノ官位勳階隊號職名氏名族籍年齢住所ヲ掲ゲ次ニ判決主文及ビ其ノ理由ヲ記載シ最後ニ判決ノ年月日及ビ判決ヲ爲シタル軍法會議ヲ記載スルヲ通則トス而シテ主文及ビ理由ハ判決ノ二大要件ニシテ各判決ノ種類ニ依リ記載ヲ異ニス即チ、

一、有罪ノ判決書ニハ主文(例ヘバ被告某ヲ懲役一年又ハ禁錮二ヶ月ニ處スト云フガ如シ)ノ外其ノ理由トシテ罪トナルベキ事實并ニ其ノ事實ヲ認ムルニ至リタル證據及ビ其ノ犯罪事實ニ適用シタル法律ノ正條ヲ掲グベシ、

二、無罪ノ判決書ニハ主文(被告某ヲ無罪トス)ノ外ニ其ノ理由トシテ人違ヒナリシコト若クハ被告事件罪トナラザルコト若クハ犯罪ノ證憑十分ナラザルコト等ノ事實ヲ記載セザルベカラズ、

三、免訴ノ判決書ニハ主文(被告某ヲ免訴ス)ノ外其ノ理由トシテ公訴ノ時効ニ罹リタルコト若クハ大赦アリタルコト若クハ確定裁判ヲ經タルコト若クハ法律ニ於テ其ノ罪ヲ全免スルコト等ノ事實ヲ記載スルコトヲ要ス、

四、管轄違ノ判決書ニハ主文(某ニ對スル何々被告事件ハ管轄スベキモノニアラズ)ノ外其ノ理由トシテ管轄違タルベキ事由ヲ記載スベキモノトス、

五、私訴ノ判決書ニハ主文(例ヘバ被告ハ原告ニ對シ金何圓ヲ速カニ賠償スベシ又ハ原告ノ請求ヲ棄却ス)等ノ外其ノ事實上及ビ法律上ノ理由ヲ記載スベキモノトス、(海治第九十一條)

六、判決ノ具申及之ニ對スル長官又ハ大臣ノ職務、

判決書ノ作成ヲ終リタルトキハ之ニ訴訟書類ヲ添ヘ其ノ命令ヲ下シタル長官ニ具申スベシ、

長官其ノ具申ヲ受ケタルトキハ直チニ裁判宣告ノ命令ヲ下スベキ場合ト否ラザル場合トアリ、

一、直チニ宣告ノ命令ヲ下スベカラザル場合、

次ノ場合ハ直チニ宣告ノ命令ヲ下サズシテ訴訟書類ヲ添ヘ海軍大臣ニ具申セサルヘカラズ、

(一) 死刑ニ該リタルトキ、

(二) 佐官又ハ同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リタルトキ、

(三) 尉官及ビ同等軍人ノ重罪ノ刑ニ該リタルトキ、
海軍大臣以上ノ具申ヲ受ケタルトキハ意見書ヲ附シテ上奏シ裁可アリタル後長官ニ下附シ長官ヲシテ裁判宣告ノ命令ヲ下サシムヘキモノトス、(海治第九十二條、第九十三條)

二、直チニ宣告ノ命令ヲ下スヘキ場合、

前示宣告命令ヲ下スベカラザル三箇ノ場合ノ外ハ總テ直チニ裁判宣告ノ命令ヲ下スベシ、

又臨戰合圍ノ地ニ於テハ前示三場合ト雖モ其ノ地ノ司令官直チニ裁判宣告ノ命令ヲ下スコトヲ得ルナリ是レ戰時常經ニ依ルヲ得ザルニ由ル、(海治九十四條)

七、裁判宣告、

裁判宣告ノ命令アリタルトキハ主理宣告ノ日時ヲ定メテ判士長判士ニ通報シ録事ヲシテ被告人ヲ出廷セシメ判士長判士主理録事列席シ判士長其ノ宣告ヲ爲スヘシ私訴裁判ノ宣告ヲ爲ストキハ被害者ヲモ出廷セシムヘシ若シ被害者其ノ地ニ在ラザルトキハ其ノ宣告書ヲ送達スベシ、(海治第九十七條、海治執第四十四條)

軍法會議ハ傍聽ヲ許サザレドモ裁判宣告ノ時ハ軍人ニ限り之ヲ許ス、(海治第二條)

八、闕席ノ裁判、

禁錮以上ニ該ルベキ被告人逃走シテ開廷ノ日時ニ出廷セズ若クハ其ノ逃走ニ因リ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得ザルトキ及ビ罰金以下ノ刑ニ該ルベキ被告人召喚狀ヲ受ケ開廷ノ日時ニ出廷セザルトキハ被告人訊問ヲ爲サズ單ニ書類ノミニ依リ又ハ必要ア

ルトキハ他ノ證據調ヲ爲スノミニシテ被告人缺席ノ儘直チニ裁判ヲ爲スコトヲ得是レ前ニモ述べタル如ク元來被告人ノ陳述ヲ聽ク所以ノモノハ被告人ヲシテ辯解ノ機會ヲ得セシメントスルニ在ルニ如此場合ハ被告人自ラ其ノ辯護權ヲ放棄セルモノト看做スコトヲ得レバナリ、

缺席裁判ノ場合モ其ノ長官ヘノ具申及ビ裁判宣告ノ手續等ハ對審裁判ノ場合ト異ナルコトナシ但シ其ノ宣告ヲ爲シタルトキハ宣告書ヲ軍法會議ノ門前ニ揭示シ其ノ一通ヲ被告人ノ住所ニ送達セザルベカラズ、(海治第八十八條、第九十七條、第九十條)

九、高等軍法會議ノ判決、

高等軍法會議ノ判決手續ハ通常軍法會議ノ手續ト異ナルコトナシ唯其ノ構成員ノ身分異ナルト海軍大臣ヲ長官トスルガ故ニ大臣ガ直チニ宣告命令ヲ下スコト及ビ上奏裁可ヲ得テ宣告スルヲ要スル場合ガ通常軍法會議ノ三箇ノ場合ノ外ニ將官及ビ其同等軍人ノ重罪輕罪ノ刑ニ該リタル場合ヲモ上奏裁可ヲ要スルノ差アルノミ、

一〇、判決始末書、

判決始末書ハ判決開廷ヨリ裁判宣告ニ至ルマデノ判決手續ノ經過ヲ記載スルモノニシテ判決廷立會ノ録事之ヲ作り立會主理ト共ニ署名捺印シ訴訟書類ニ添ヘ置クモノトス是レ判決軍法會議ガ適法ニ構成セラレタルヤ否ヤ判決手續ガ適法ニ履行セラレタルヤ否ヤヲ見ルベキ唯一ノ證明書類ナレバナリ但シ被告人證人參考人等ノ陳述ハ審問調書ト異ナル點若クハ新ナル陳述ノミ其ノ要領ヲ取録スルモノナリ、

第五編

再議及再審

軍法會議ノ裁判ハ現行制度ニ於テハ一審終審ニシテ通常裁判所ノ裁判ノ如ク上訴ノ途ナキガ故ニ其ノ審判ハ固ヨリ鄭重慎重ナルベキモ其ノ審判ノ任ニ當ルベキ判士長判士乃至主理モ神ナラス身ノ時ニ誤判ナキヲ保シ難シ去レバ軍法會議ノ裁判ニ對シテモ誤判救正ノ手段ナキヲ得ズ是レ再議再審ノ設ケアル所以ナリ而シテ再議再審共ニ審判ヲ再ビスルモノナレドモ再議ハ前裁判ノ宣告前ニ於テシ正審ハ其宣告後ニ於テスルノ差アリ以下章ヲ分ツテ述ブベシ、

第一章 再議、

再議トハ裁判宣告前ニ於テ其ノ裁判ノ違法ナルコトヲ發見シテ之ヲ匡正スル爲メ更ニ審判ヲ再ビスルノ制度ナリ、

一、再議ノ原因及命令、

再議ノ原因ハ法律ニ違背シタル判決ニ在リテ其ノ場合ハ次ノニアリ、

- 一、長官ヨリ命ズル場合、長官判決ノ具申ヲ受ケタルトキ其ノ判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ裁判宣告ノ命令ヲ下サズシテ之ヲ再議セシム但シ前ニ述べタル如ク直チニ裁判

宣告ノ命令ヲ下スベキ權ナキ場合ニハ違法ノ判決ト認ムル旨ノ意見書ヲ附シテ海軍大臣ニ具申スベシ、(海治第九十五條)

二、海軍大臣ヨリ命ズル場合、海軍大臣高等軍法會議若クハ長官ヨリ具申シタル判決法律ニ違ヒタリト認ムルトキハ再議ヲナサシム、(海治第九十六條)

二、再議ニ於ケル訴訟手續、

再議ニ於ケル判決手續ハ前ノ判決ノ場合ニ於ケルト同一ナリ但シ原裁判ニ干與シタル判士長判士主理ハ再議ノ裁判ニ干與スルコトヲ得ザルナリ是レ先入主トナルノ弊ヲ防ガンガ爲ナリ、(海治第十九條)

第二章 再審、

再審トハ裁判宣告確定ノ後其ノ誤判タルヲ發見シ之ヲ匡正スル爲メ更ニ審判ヲ再ビスルノ制度ナリ、

凡ソ裁判一たび確定(軍銜ノ判決ハ宣告ト同時ニ確定ス)スレバ既判力ヲ生ジタトヒ罪名ノ變更アルモ又ハ新證據ヲ發見スルモ之ヲ動かスコト能ハザルヲ原則トス是レ蓋シ若シ否ラザルトキハ人々頗ル不安ノ念ヲ抱キ裁判ノ信用ヲ保ツ能ハザルニ至レバナリ然レドモ實體上ノ眞實ヲ求ムル主義ヨリスレバ此ノ原則ヲ絶對ニ認ムレバ甚ダ不當ノ場合ヲ生ズ茲ニ於テカ各國共ニ著シキ錯誤アル場合ニ限り例外トシテ再審ヲ許セリ諸外國ノ例ハ概テ被告人ノ利益ノ爲メナルト否トヲ問ハザレドモ本法ハ刑事訴訟法ト共ニ被告人ノ利益ノ爲メノミニ制限セリ、

三、再審ノ原因、

再審ノ原因ハ法律上ニ基クモノト事實上ニ基クモノトノ二種アリ、

第一、法律上ニ基ク再審ノ原因、

法律上ノ理由ニ基ク再審ノ原因ハ次ノ三箇ノ場合ニ限ル、(海治第一百條)

一、法律ノ罰セザル所爲ニ對シ刑ヲ宣告シタルトキ、

其ノ罰セザル所爲タルヤ否ヤハ新證據ニ依リ決スルコトヲ得ズ必ズ前判決ニ現ハレタル事實ニ依リ決スベキモノトス例ヘバ竊盜ノ條件ヲ具備セザル事實ヲ認メナガラ竊盜ノ刑ヲ科シタル判決ノ如シ、

二、法律ニ定ムル所ノ刑ヨリ重キ刑ヲ宣告シタルトキ、

例ヘバ逃亡罪ノ刑ハ平時ニ於テハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ナルニ二年以上ノ刑ヲ科シタル場合ノ如シ若シ法定刑ノ範圍内ナランニハ如何ニ不相當ト認ムルモ再審ノ理由トナラズ、

三、無罪ノ宣告ヲ爲スベキニ免訴ノ宣告ヲ爲シタルトキ、

蓋シ免訴ノ判決ヲ爲スベキ場合ハ例ヘバ既ニ確定判決ヲ經タルカ大赦ニ遇ヒタルカ時効ニ係リタルカ等多クハ罪アリタルモ他ノ理由ニ因リ訴追ヲ免ズル場合ナルガ故ニ無罪ノ宣告ヲ受クベキ場合ニ免訴ノ宣告ヲ受ケタルトキハ被告人ノ名譽上ノ利益ナリトテ再審ノ原因トシタルモノナルベキモ實際ニ於テハ二者効力ニ差異ナケレバ此ノ條件ハ餘リ實用ナカラン、

第二、事實上ニ基ク再審ノ原因、

事實上ノ理由ニ基ク再審ノ原因ハ次ノ六箇ノ場合ニ限レリ、

(海治第百二條)

- 一、人ヲ殺シタル罪ニ付刑ノ宣告アリタル後其ノ殺サレタリト認メラレタル者犯罪後現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリタルトキ、
- 二、同一事件ニ付共犯ニ非ズシテ別ニ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノアリタルトキ、
- 三、公正證書ヲ以テ當時犯罪ノ場所ニ在ラザルコトヲ證明シタルトキ、
- 公正證書トハ官吏公吏ガ公ノ資格ニ於テ作成セル文書ヲ云フ、
- 四、既ニ判決ヲ經タル事件ニ對シ再ビ判決アリタルトキ、
- 五、被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノアリタルトキ、
- 六、公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ、

四、再審ノ命令、

再審ノ命令ハ常ニ海軍大臣ノ下ス所ナリ是レ再審ハ一ニ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スレバナリ而シテ海軍大臣ハ自ラ再審ノ原因アルコトヲ知ル場合ト他人ニ依テ知ル場合トアリ他人ニ依テ知ル場合ハ次ノ如シ、

- 第一、長官ヨリ具申アリタル場合、本法第百三條第二項、第百四條第四項ニ依レバ長官再審ノ原因アルコトヲ發見シ若クハ其ノ申訴ヲ受ケタルトキハ訴訟書類ニ意見書ヲ附シ海軍大臣ニ具申スベキモノナリ、
- 第二、主理被告人若クハ被告人ノ親屬ヨリ申訴アリタル場

合、

本法第百四條ニ依レバ是等ノ者再審ノ原因アルコトヲ發見シタルトキハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ長官ニ申訴ヲ爲シ長官ヨリ前段ノ如ク海軍大臣ニ具申シ艦隊軍法會議、高等軍法會議、合圍地軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタルモノナルトキハ是等ノ者ヨリ直チニ申訴ヲ爲スベキモノナリ其ノ申訴ヲ爲スニハ其ノ理由書ニ原裁判宣告書ノ謄本及ビ證憑書類ヲ添附スルヲ要ス、

五、再審ノ訴訟手續、

- 一、海軍大臣再審ノ命令ヲ下シタルトキ刑ノ執行中ニ係ルモノハ其ノ執行ヲ停止ス可キモノナルガ故ニ主理ハ其ノ刑ノ執行ヲ中止セシムルノ手續ヲ爲サザルベカラズ、(海治第百五條)
- 二、主理ハ通常ノ訴訟手續ト同ジク訴訟書類ニ意見書ヲ附シテ判士長ニ交附シ會議ノ日時ヲ定メ判士長ニ通報スベシ但シ原裁判ニ從事シタル判士長判士主理ハ再審ノ裁判ニ干與スベカラズ、(海治第十九條)
- 三、再審軍法會議ハ先ヅ再審ノ原因アルヤ否ヤニ付審査シ若シ其ノ原因ナキトキハ其ノ趣ヲ上申シ若シ其ノ原因アリト認メタルトキハ原判決ヲ破毀シ本案ニ入り取調ブルモノトス、
- 四、本案ノ訴訟手續ハ全ク通常ノ場合ト異ナラズ特ニ事實明瞭ニシテ更ニ被告人證人ノ訊問ヲ要セズト認メタルトキハ直チニ書類ノミニ依リ判決ヲ爲スコトヲ得、(海治執第五十條)

五、再審事件ハ他ノ事件ヲ擱キ其ノ審判ヲ爲スベキモノトス、(海治執第四十九條)

六、再審ノ宣告ハ宣告書ヲ被告人所在地ノ軍法會議ヲ管轄スル長官ニ移シ其ノ所屬軍法會議ニ於テ之ヲ爲サシムルモノトス、(海治執第五十條)

茲ニ再議再審ヲ通ジテ一ノ疑問アリ他ナシ再議再審ノ判決ニ再議再審ノ原因ヲ發見シタルトキハ更ニ再議再審ヲ爲スヲ得ルヤ否ヤ換言セバ再議再審ハ何回ニテモ繰返スコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ナリ然ルニ再議再審ナルモノハ前議ヲ再ビスルノ義ニシテ之ヲ再三再四スルノ謂ニ非ザルコトハ法文ノ正面ヨリ明カナルノミナラズ若シ否ラザルトキハ底止スル所ナク軍法會議ノ信用ハ地ニ落ち長官大臣獨リ裁判權ヲ蹂躪スルノ結果ニ陥ルベシ、

第六編

裁判ノ執行

一、軍法會議ノ判決ハ宣告ト同時ニ確定スルガ故ニ收禁ヲ受ケタル被告人ニ對シテ無罪免訴又ハ罰金科料ノ宣告アリタルトキハ主理直チニ之ヲ釋放セザルヘカラズ自由刑ニ處セラレタル者ハ監獄ニ交附シテ執行セシム(所在分明ナラザル者ニ對シテハ海治第五十九條ニ依リ逮捕狀ヲ發ス)管轄違ノ宣告アリタルトキハ主理其ノ事件ヲ管轄スヘキ軍法會議所在ノ地ノ海軍檢察官若クハ陸軍檢察官ニ送致シ普通裁判所トノ管轄違ナルトキハ上告期限盡クルノ後其ノ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スヘシ、(海治第五十四條)

二、受刑者海軍監獄ニ於テ刑ヲ執行スヘキ者ニ非ザルトキ(重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ其ノ他軍人タル身分ヲ失ヒタル者ノ如シ)ハ其ノ監獄ハ裁判宣告書謄本ヲ添ヘ其ノ執行ヲ爲スベキ監獄ニ送致スヘシ、(同上第五十五條)

三、再審ノ裁判ニ依リ刑ヲ執行スルトキハ先キニ執行シタル刑ヲ通算シ其ノ刑ノ停止中拘禁シタル者ハ其ノ拘禁日數ヲ刑期ニ算入ス、(同上第五十六條)

四、罰金科料ノ宣告アリタルトキハ主理其ノ期限内ニ納完セシム其ノ被告人艦船團隊校居住ノ者ナルトキハ所屬長ニ囑

託シ監獄ニ在ルトキハ監獄長ニ囑託シテ納完セシムベシ、
(同上第五十九條)

五、 勞役場ニ留置スベキ者ハ主理裁判宣告書ノ謄本ヲ添ヘ
之ヲ勞役場ニ交附スベシ、

勞役場ニ留置スベキ者遠隔ノ地ニ在ルトキハ其ノ所在地ノ
軍法會議主理若クハ所屬長ニ裁判宣告書謄本ヲ送致シテ其ノ
執行ヲ囑託スベシ受託者其ノ執行ヲ爲シタルトキハ之ヲ囑託
軍法會議ノ主理ニ通報スベシ、(同上第六十條)

勞役場留置ノ處分ヲ爲シタルトキハ主理其ノ旨ヲ海軍大臣
若クハ長官ニ具申スベシ、(同上第六十一條)

六、 死刑執行ノ命令アリタルトキハ主理豫メ其ノ期日ヲ定
メ(大祭、祝日、靖國神社大祭日、一月一日及ビ十二月三十一
日ヲ除ク)海軍大臣若クハ長官ニ具申シ兵員ノ出場ノ處分ア
ランコトヲ請ヒ又監獄長、監獄醫官ニ通報スベク監獄長ハ其
ノ通報ニ依リ死刑執行ノ準備ヲ爲スベシ、

死刑ヲ執行スルトキハ犯人ヲ刑場ニ護送シ主理監獄長(艦
船ニ在リテハ尉官トス以下同ジ)醫官録事之ニ立會ヒ監獄長
死刑ヲ執行スル旨ヲ犯人ニ告示シタル後銃手之ヲ射殺ス、

銃手ハ水兵十二名ヲ選ビ尉官一名之ヲ指揮スベシ、

銃手ハ六人ヲ前列トシ六人ヲ後列トシ四人ヲ距ル十歩ノ地
ニ於テ前列ヲシテ四人ノ眉間ヲ狙ヒ一齊ニ發射シテ之ヲ擊タ
シム若シ死ニ至ラザルトキハ後列ヲシテ之ヲ擊タシム、

死刑ヲ行フトキハ衛兵若クハ水兵若クハ憲兵ヲシテ刑場ヲ
警戒セシメ執行ニ關スル者ノ外入ルコトヲ許サズ但シ主理ノ
許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラズ、

死刑執行ニ付テハ録事其ノ始末書ヲ作り主理、監獄長、醫
官、録事ニ署名捺印スベシ、

死刑ノ執行終リタルトキハ監獄屬員(艦船ニテハ下士)ヲシ
テ埋葬ノ處分ヲ爲サシメ遺骸ノ下附ヲ請フモノアルトキハ其
ノ下附ノ處分ヲ爲サシムベシ、

死刑執行終リタルトキハ主理其ノ旨ヲ海軍大臣若クハ長官
ニ具申シ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スベシ、(同上第六十一
條ノ二乃至第六十八條)

七、 徵收シタル罰金、科料、追徵金其ノ他沒收金ハ受領者
ヨリ事由ヲ記シテ收入官吏ニ送致スベク又沒收物件中法律ニ
於テ禁制シタル物件ハ之ヲ裁斷若クハ燒棄スベシ但シ偽造貨
幣ノ如キ原質ヲ存スベキ物ハ之ヲ裁斷シ事由ヲ附シテ物品會
計官吏ニ送致スベシ其ノ他ノ物件ハ物品會計官吏ニ送致スベ
シ、

八、 海軍軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者
ニ關スル取扱手續次ノ如シ、

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲シタルトキハ軍法會議ハ其ノ旨ヲ
所轄長ニ通報スベシ所轄長又ハ主理刑ノ執行猶豫ヲ取消スベ
キ原因アルコトヲ知リタルトキハ其ノ旨ヲ刑ノ言渡ヲ爲シタル
軍法會議又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ニ
近キ軍法會議ニ通報スベシ、

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者海軍軍人又ハ准海軍軍人
タル身分ヲ失ヒタルトキハ所管長官ニ申報スベシ、(明治四
十一年十月達第二百十號)

九、 軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニシ

テ其ノ身分ヲ失ヒタル場合ノ取扱手續次ノ如シ、

其ノ場合ニ於テ所管長官ハ裁判宣告書寫ヲ添ヘ本人ノ刑ノ執行猶豫中ナル旨ヲ本人ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ通報スベシ、

軍法會議ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消シタルトキハ主理ハ其ノ旨及ビ取消ノ原因ヲ本人ノ所管長官及ビ本人ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ビ本籍地ノ戶籍吏ニ通知スベシ、

尙ホ主理ハ取消言渡書ノ寫ヲ添ヘ本人ヲ其ノ地ノ海軍監獄ニ交附スベシ、

海軍監獄長本人ノ交附ヲ受ケタルトキハ取消言渡書ノ寫ヲ添ヘ本人ヲ最近ノ普通監獄ニ送致スベキモノトス、(明治四十一年十月達第百二十二號)

其ノ他裁判ノ執行ニ關スル詳細ノ手續ニ至リテハ海軍治罪法執行規則海軍監獄令又ハ關係單行法令等ヲ參照シテ知ルベシ、

第廿九期
赤羽

整 齊	理 子	
寄 贈 者 名	赤 羽 龍 熊	
寄 年 一 卷	贈 奉	40.7.-8
		2408